鴨川少年少女合唱団

石巻市訪問感想文集

２０１６年3月１９日～２０日

〔石巻訪問記録〕

（２０１６年3月１９日～２０日）

【１日目】

５：２０市役所集合　小雨の中、朝食弁当や房総の花を積む。指導者３名　団員３１名　ＯＢ２名は１号車　ＯＧ７名　保護者後援会１４名は２号車に乗車

５：３０出発

あいさつ　朝食弁当を配布し各自とる。

６：３０海ほたるトイレ休憩　山口姉妹が合流

６：４５出発

８：２２友部着トイレ休憩　すぐ出発

１号車は練習タイム　　２号車は自己紹介をしてＯＧ練習タイム

常磐道を北上するにつれ線量計の数字があがる。高速道路脇にところどころにあり 0.7 マイクロシーベルトくらいで気がついた。田畑の表面の土を削ったようで集めた土を盛ったらしいところにはシートがかぶせられていた。あるいは集めた土を袋に入れて並べられているところも多くみられた。双葉町付近は線量が一番高く 4.3 マイクロシーベルトで、民家のあたりも人気がなく周りは草ぼうぼうで不気味な様子だった。

しばらくゆくと線量も次第に下がり、緑も増え田畑の整備された様子になってきた。原発に影響されたところをすぎてしばらく行くと津波の広がった地域になり、仙台あたりでは新しく建てられたアパートや病院などがみられた。

南相馬鹿島ＳＡにて昼食　小雨　予定より早めなので車中着替えの予定だったが、憲悦氏のご厚意でビッグバンで着替えさせてもらえることになった。

１２：５５道の駅上品の湯にて石巻市議会議員の高橋憲悦さんと吉田さんと合流

１３：００ビッグバン到着

団員は着替え､大人は高橋さんからビッグバンの避難所の様子を聞く。最高８００人が避難生活をしていた。

１３：３０ビッグバン発

１３：５０大川小着　献花台にて献花。一人一本ずつ房総のカーネーションを供え手を合わせた。校舎前の中庭に移動し、校舎に向かい追悼の校歌を歌った。向き直って「花は咲く」の合唱、この２曲の時だけは不思議と風が小やみになった。

「世界に一つだけの花」の後、髙橋憲悦さんのリクエストでお客さんの方を向いて再び「校歌」を歌わせていただいた。

１４：４０大川小発

１５：５０サンファンビレッジ着　鍵の説明チェックイン　夕食　ボリュームもありおいしかった。

１６：５０サンファンビレッジ発　途中ホタテの貝殺が大量に積まれていた。また、まだ仮設住宅もたくさんあった。

５：１５JA 駐車場着

５：３５ごろ稲井公民館着

団員は挨拶の後２階控え室に荷物をおいて準備。ローファーの裏を拭いてはかせてもらう。すでにお客さんはかなりはいっていた。保護者は掲示物の準備とプログラム折りをしてお客さんに配った。

メッセージや色紙を折り鶴などで飾った。鶴を折ってきて下さった方有難うございます。

６：００開演高橋憲悦さんの挨拶「おばんでございます」ふるさとの風「１１７一久会」の芳賀伸行(石巻専修大学教授)先生による鴨川少年少女合唱団が石巻に来ることになったいきさつ、阿部石巻市議会議長あいさつ、県議会議員のメッセージ代読、千葉県からのメッセージ紹介、拍手の練習、３６５日の紙飛行機、地球星歌、河村優美さんソプラノ独唱、立ち上がって拍手した人がいた。鈴木信太郎さん、カズーを使って楽しい演奏で、黒川浩和さん､なごり雪

上を向いて歩こうを会場の人と歌った。とてもよく歌ってくれた。客席の女性が手拍子で会場を盛り上げた。合唱団とOB・OGでリパブリック賛歌、ハナミズキ、涙そうそう、花は咲く、よかったらご一緒にお願いしますと言って歌った「ふるさと」泣いている方もいた。
みなさんよく歌ってくれた。サプライズとして「大川小学校校歌」目をつぶって聞いてくださいとお願いする。
史郎先生言葉に詰まった、一緒に歌ってくださいと言ってもここまで多くの人が歌ってくださるのは初めてと。
「世界に一つだけの花」目をつぶって歌詞を聴いてください「大川小校歌」前の方の人は目を押さえている人もいた。「さようなら」を歌いつつメッセージを送る高２柚奈・南帆・莉奈が挨拶の言葉に詰まると客席から「がんばって」と優しい声がかかる。最後は歌いながら見送りをし団員みんながお客さんに房総の花を手渡した。終了後、写真撮影は団員、保護者ほか全員。後から佐久間凌香さんとご両親がかけつけて、もう一度写真撮影。東京からOGの近藤歩ちゃんが、仙台から望ちゃん姉妹も聴きにきてくれた。

【２日目】

６：００～８：３０各自朝食

９：１０バスに荷物を積み駐車場でリパブリック賛歌を合唱、駐車場の人やサンファンビレッジの人がみていた。

サンファン館に向かう途中、すり鉢状の広場を通り抜ける。噴水台(冬なので休止中)のよく響くことを史郎先生が確かめる。

９：３０入館までサンファン館の上の公園からサンファン号や太平洋を眺める。天気も良く穏やかな海だった。

９：３０入館。セミナールームへ入室。子どもは無料だが大人は有料でＪＡＦカードが役に立つ。サンファン館へ房総の花のプレゼント

９：４７高橋憲悦さんのお話

昨日のコンサートで３００人以上のお客さんの多くは涙を流されていた。夜、自宅の電話は鳴りっぱなしで、多くの方が「よかったよ」と言って下さった。

これから前半の３０分は只野さん（父）からお話していただきます。只野さんの当時小５だった息子さんは柔道の試合のため来られないそうです。後半の３０分は女川町佐藤先生の教え子さんのお話です。

只野さん（父）のお話

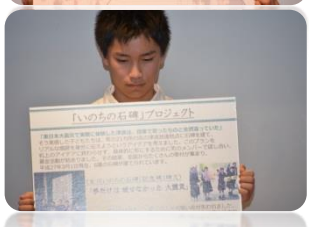
震災遺構として大川小を残すかＴＢＳ番組で報道されていますが、子ども７４人、先生１０人、地区の人約２００人が亡くなられた。家族や家を失った人の中には見たくない人、語り継がなきゃと言う人、がおり、今も仮設にいる人も多い。３月中に大川小も門脇小も残すかどうかを決めることになっている。２月の公聴会では残したい壊したいと話し合い、まだ判断が速いのではないかという声も。昨日のテレビのDVDもバスの中で見てほしい。昨日大川小をみてどう思いましたか。冊子の表紙にある在りし日の大川小と比べて考えてみてほしい。親と妻と娘をなくし残ったのは祖母と息子と自分の３人。息子は津波に遭いながらも奇跡的に助かった。知ってほしいという息子。つらいから忘れてしまえというのも優しさかもしれないが、好きなだけしゃべれといっている。事実を聞いてもらった、聞いてもらっているなという感覚が心のケアになる。つらいからしゃべらない、

そういう人もいるかもしれない。聞いてもらうのも優しさ。相談に乗ることも大切。学校残したい人の話きき　大切に。
テレビ視聴。
長い夢を見ているよう。3：３７で止まった時計。慰霊にきたり、防災研修として来たりする人がいるが、実際初めて見てわかることがあり、裏山に登れば助かったのではとか　被災校舎に対しての議論も。インタビュー①子どもに手を握ることも声をかけることもできなかった。４年たってもなんか　　②あそこに立つと息子のことが思い浮かぶ。４年立っても何日もたっていない気がする。③２０１１・３月小６の息子朝「いってきます」といってでた。感覚的に小学校にまだいるという思い。自分にとっての聖地。子を失った親にとってかけがえのない。学校の震災や慰霊碑
住民アンケート大川地区復興協議会の３案
１学校を解体して映像を残す。２野外音楽堂と一部保存。３震災遺構としてすべて残す。多くの人に訪れてもらいいろいろと考えてもらう。　大人だけで考えるものではなく、伝える子どもの思いも聞いてほしいと只野さんはいう。只野さんの子は、学校も妹もなくなった。友達の分も生きたり勉強したりしたい。去年１２月、『助かったはずの命をなぜ守れなかったのか、何がだめだったのか、大川小のことを後世に語り継いで、この気持ちを味わう子をなくしてほしい』と、現状を２３人の遺族は石巻市を相手に訴訟を起こしたが、遺族は５０分待機させられた　学校管理下での人災。自分の最愛の子がどんな最後を迎えたのか知りたい。津波までの５０分間に何があったのか。津波の避難行動。校舎や地形が証拠になる。
早稲田大学　防災　教授　被災地支援　津波防災マニュアル　海つながりの被害　遺構が残ることで助かることも　大川小の二階の床が盛り上がり、でこぼこなのは一階に入った津波が上に押し上げることで天井がこわれた。南三陸防災庁舎は解体されそうになったが宮城県知事が１０年かけてゆっくり考えなさいと残すための予算を県で負担。一方打ち上げられた船は、７割反対したため解体したが残しておけばよかったという声が挙がっている。大川小については市からも教委からも示されず忘れられたのではないかとの思い。
話し合いは１２０人参加　将来の津波対策になるのではないか、家族を亡くしてつらい、負の遺産として残してよいのではないか。
生き残った子どもは、校舎残して伝えたい。大川小の思い出は宝物、できることは語り継ぐこと次の世代のために何十年先にも伝えられるように。津波でふるさともなくした、残ったのは大川小。当時の恐怖がよみがえる人もいるかもしれないけど、みんなの生きた証を残さないと。すべて保存が多数で話し合いは終わった。協議会はこれを受け話し合い、石巻市に要望する。広島の平和への象徴と同じように　大川小の校庭にいると大きな堤防があり津波がくるという実感はなかったかも。世界の平和を考えようという壁画をみるにつけ多くの子が亡くなった、亡くなった人の死をむだにしない為には、話し合いをすること、遠くにいる人も忘れずにいること　防災安全の象徴として、卒業生６人は残してほしい。語り継ぐことはなすこと。思いをうちに秘めるのではなく表に出すことが心のケアにつながる

質疑
保護者
津波の衝撃、破壊力はどのようなものか。
只野さん
チーム大川　当時小６の子どもによれば、堤防よりも津波は高い壁（２～３メートル津波が高い）のよう、ようかんみたいのがきた。
橋の３分の１がこわれた対岸は水が流れたのであふれなかったが、大川小側は壊れないから学校側へきた。二階の壁まで届く只の水ではなく真っ黒でがれきや家の残骸が一緒くたになっている津波の怖さはただ者ではない。鉄砲水のような感じ急にドンときたから校舎に入って持ち上がる。洗濯機の中に入った感じ人間の体は一回だけ浮き上がるといわれているそのときにポンと持ち上げられた人は生きる、そうでないと助からない、といわれている。

　後半の３０分　女川町の『１０００年後の命を守る』活動をしている高校生３人と中学の時の先生からお話頂いた。
　阿部一彦先生〈中学〉
女川町に４３．７メートルの津波、町の中心でも３４メートルの高さ（５階位）に達しコンクリートの建物も３棟倒れた。ちなみにアラスカで氷河が崩れて起こった５２４メートルもの津波で亡くなったのは３人、女川では８７０人、人口約１万人のうち８．９％町内にいた５５％が死亡
小６で地震を体験した子らに中学校社会で何ができるか考えさせる授業から発展した活動
この子たちは私の先生と紹介

１０：４２
中学卒業し別の高校に通う同級生３人の話
地震の３０分後に女川町に津波、最大４３メートル８０％の家屋流出した、１千年に一度の災害と言われているので、「千年後の命を守る」
２０１１年８月社会科授業。津波の被害を最小限の被害にする
１互いの絆を深める・・・同級生の祖父が避難を呼び掛けていてにげおくれたことから
２高台に避難できる街づくり・・・広い避難路、ソーラーパネル、避難誘導灯、小学校・病院は高台に移し、漁師は海沿いで働く
３記録に残す・・・記録・本・情報には体験した記録と違うことがあることから正しい記録を残す
①被災した建物を残す。保存決定したもの〈地面に梁があり、丈夫なはずの梁が根こそぎ倒れており、世界で２例目〉原爆ドームでわかるように後世の人に伝わるように
②いのちの石碑をたてる。昭和８年３月３日昭和津波の時、「ここより下に建物を建たせるな」の石碑を道路拡大工事でおろしてしまった。石碑によって守って津波の到達点より上に立てて伝えたい。石碑の形〈上部が斜めに削られている〉は鎌倉時代, に戦いの弔いの意を表し、亡くなった人への畏敬の念をこめている。「夢だけは壊せなかった大地震」のように石碑ごとに違う句をきざみ２１基建てる予定。現在１１基、残り１０基を二十歳までに建てたい。
③いのちの教科書づくり。友人のひとこと「今、方程式が解けるのは小１から足し算引き算掛算と順を追って習っているからだな」をきいて考えた。小１から順序良く学べるように、台風や水害等この先、災害から命を落とす人をなくすために　女川町の被害、地震や津波の仕組み、防災、地域の約束など、いのちを守ることについて伝えたい。津波のれきしについて編集し、地震津波には多くのパターンがあり命を守るために知識を増やしてほしい
　いつまでやるのと聞かれるが、この活動は死ぬまで続ける。１０００年後の命を守るために、固い決意を持って、女川大好きなので活動している。私達はここに生まれただけ、特別じゃない、自分たちがこうしたい、という時に、先生や地域の方が応援してくれた。



2016/03/20 11:25
サンファンビレッジ出発、門脇小に向かう

門脇小元校長鈴木ようこ先生のお話
千倉小で話をしてくださった縁で門脇小の近くでお話を聞く。３度目と繰り返し訪れていること、忘れていないことを感じると喜んでくださる。
　門脇小は１３７年続く伝統校だった。門脇は湾から８００メートル旧北上川にから５００メートルのところに位置。伊達正宗が水田を整備し船で米を門脇地区に集め、それを房総のさきをぐるりと回って江戸に届けていた。当時江戸の米の３分の２は門脇から届けられたものだった。鈴木先生が教員になった頃大地震がありタンスの上に別の家具が倒れ電気も落ちる経験をしており、３０年周期で起こるといわれていたので、いつも地震のことは頭にあった。
　２０１１・３・１１
その日は黒い雲が垂れ込めとりかこまれたような恐ろしい感じの空。１年生は帰宅したか下校中。２年生の１クラスは下校しもう１クラスは帰りの会中。３年以上は学校にいた。２：４６に大地震がきて、すぐに校庭避難し、２：５５には集合していた。そこへ防災無線が大津波警報をしらせたので、高台に逃げることにした。裏の高校から日和山に避難し、避難して３０分たったころ津波がきた。津波はゆらゆらとした波ではなく、真っ黒の壁のようだった。海からの津波と川からの津波が日和大橋で一緒になり少し低いところに流れ込み一気に押し寄せてきた。

迎えにきた親に引き渡しをしたが４１人の子はすぐにはむかえがなかった。親も被災していたため、石巻や仙台から歩いて迎えにきたので時間がかかった。
　普段から大切にしていたこと
１廊下は静かにあるく
２集合は素早く静かに
　指示がすぐに通ることが大切。
３地震がきたら高いところへ
被災地で小学校高学年・中学生・高校生が力になる。
別れ際、子ども達一人一人と握手し声をかけてくださった。また、みなさんがおうちの人やお友達にこのことを是非伝えてください、と。

2016/03/20 12:18 角の脇小出発
２バス車中
高橋憲悦さんの話
車窓から見える町の様子を紹介してくださった。助けてといっているそばから水上で爆発が起こり持ち上がって沈んでいく。学校は校内から火がでたのではなく、燃えてきた車が学校につっこんで燃えた。門脇小は焼けたまま、子どもの机も燃え残った足だけ残る。現場検証もされないまま残っている。津波をバカにしないでとにかく高台に逃げて。旅行するときも海辺にきたら山をみて逃げ道を探してほしい。石巻で亡くなった人３６００人中１５０人は仕事や旅行の人。海で発見された人は石巻に来ずに仙台で収容され確認に時間がかかった。　日本製紙の街、門脇だったが、日本製紙の住宅街もなくなった。津波がきたところまで印のついたビルや水産加工品白謙のかまぼこ工場、造船所の船が押し寄せられた橋、サッカー場は線を引いて仮埋葬所になっていた。三陸自動車道が堤防の役割を果たしてそれより内側は大丈夫だった。そのため２車線化が進んでいる。昨日コンサート来た人は地元の公民館だから来やすかったという人もいた。朝訪ねると「心があらわれるようだったね。」と、昨日いただいた花がかざってあった。震災の後、日本人でよかったな。と思うことがしばしばある。いただいた支援物資たくさん集まっている。助けていただいたので、今度、何かあったらと常にご恩返しを考えている。支援物資もすぐ送る。大川小ではひとりひとり担当し、子供の棺は小さくて新任の先生の棺を取り囲む様は悲しい。　人は一人では生きられない、助け合って。ご縁があったらきてください。私も「ちゃんがに」（気楽にの意）鴨川に行きますよ。会場や宿泊施設、お客さん集め、何から何まで大変お世話になり、有難うございました。
高橋憲悦さんとお別れ、花とカステラをお渡しする。
2016/03/20 12:52

2016/03/20 13:07 利符ＪＣのろのろ１車線規制のためか
津波警報時避難者注意の看板　　名取
相馬　　復興道路建設中　高速をまたぐ部分だけ作られていた。
2016/03/20 13:59 南相馬鹿島ＳＡ着夕食用のサンドイッチおにぎり２つお茶を配る。昼食おみやげﾀｲﾑ
2016/03/20 14:48
南相馬鹿島SA出発南相馬０．１～４．３ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄの表示あり。原発の立屋のようなものが遠くに見える。反町トンネル０．２ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ浪江０．９ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ
草ぼうぼうで家々は放置されている感じ。田畑の表面を削って袋詰め０．７ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ双葉町４．３ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ大熊町人気はないが田畑は表面がたいらシートをかぶせて積んであるのが表面の土か。時折車は通る。桃や梅がさいている。２．０ﾏｲｸﾛｼｰﾍﾞﾙﾄ楢葉、雨がぽつぽつしはじめ、海が近くなった、田畑の表面にうっすらと緑が感じられる。

②バス感想
　川戸
福島第二原発の近くを通り、津波の被害を受けられた場所との被害の違いがよくわかったような気がした。人がいない怖さ、気配がないだけで恐怖心を覚える。来てみてみないとわからないとはこのこと。コンサート２曲目くらいまで緊張。浩和君のステージからお客さんの心がほぐれた感じ。今日のお話も貴重で、もしまた機会があれば参加したい。
　若月
三回参加したが、お話を聞く機会があり子どもたちも勉強になったと思う。今後に生かしたい。三回とも大学の先輩がきてくれて、「来てくれてうれしい」と伝えてくれた。
　星場
２回目。前回と比べ門脇は、積まれた車や被災しつつ残った家などもなくなり、堤防も作られつつあり、変化を感じる。「１０００年後の命を守る」活動が未来を守ることになることを願う。

鈴木
子どもたちの校歌。子どもたちが直前まで歌っていたものが消えてしまったこと風化させずにつないでいきたいと思った。
浜崎
２回目　二日間ともいろんな方の話を聞いたが心の復興はまだまだと思った。　地震がきたら津波がくる。高台に逃げる。鴨川に帰っても家族や知人に伝えたい
川俣
初めて参加。先生から借りた本でも震災前後の写真を見ていたが、実際に見てすごく感じたことがあった。校歌をきくたびに涙がでた。津波の戻ってきた波も被害を大きくしたときき驚いた。
昨日のコンサートあんなに多くの方、泣いている方も。貴重な体験をありがとうございました。
大溝
初めて。お話を聞いたり歌を聴いていろんな涙がでた。二日間ありがとうございました。
吉野
コンサートたくさんお客さんからよかったと聞いてよかった。初めて。大川小を見て津波の悲惨さ伝わった。女川でも災害にあった方にお話を伺い、今後どうするか考えさせられた。家でも子どもたちと話し合って伝えたい。
清水
気持ちの整理がつかず、言葉が見あたらない。想像をしていたことと実際に現場に行ってみるものとは大きさが違って、大川小で手を合わせてもかける言葉が見つからない。自分の気持ちが分からなくなる状態、少しずつ自分の中で整理していきたい。合唱団にいたからこそ参加できた経験ありがとう。
大島
後援会　初めて。なかなかこれず。写真を依頼されて参加。５年前のこと思い出される。映像や本で大川小の怖さが頭の中にあった。現場にきて思いをどう伝えるか。公民館ふるさと校歌　泣いていた
ふるさとへの思いの強さ。子をなくした心の痛み、少しでも感じることができてよかった。高校生の活動、大川小残すかの苦しみ、現実問題として感じられた。子の学びがこれからの力になる。
庄司
子どもと来れてよかった。子どもは前の時、話してはくれなかった。感じたことが重すぎて子どもたちとどう過ごしていくのか考えたい。コンサートの曲とか家で練習して想いが伝わっていくことを実感。これからも機会があれば　　歌ってすごい
堀江父
３回目　町がだんだん元気になってきている。①地震の強さはコントロールできないが災害の強さはコントロールできるのではないか、それを伝えなきゃ。②危険なことを忘れないうちは安全である。ピストルの箱に書いてあることと通じるのではないか。被害を最小限に押さえることができるのではないか。
堀江兄
初めて　実際に被災地にきた。大川小の何ともいえない空気､行ってみないと伝わらないと思った。貴重な体験だった。伝えていきたい。二日間ありがとう
堀江母
二回目　大川小はじめて。実際に行ってみなければわからない、何回テレビで見ても人から聞いても、実際に見ないとわからない。昨日のコンサート歌の力ってすごい。子どもにもよかった。防災今日の話鈴木先生の話仕事の中で生かすこと伝えていくことが自分にできることかなと思う。音楽が続けていかれること幸せなこと自分もまた
粕谷直佳
OGの感想　コンサートや練習にくるOGもいるが、保護者のみなさまに感謝の気持ちを伝える機会がないのでこの場をかりて感謝の気持ちを伝えたい。合唱団が続いていくのも現役の保護者のみなさまがいてこそ。感謝の気持ちを込めて７人ですが歌のプレゼントをしたい。♪スマイルアゲイン♪ケンタッキーの我が家
松本春菜
OGとして団員と歌うことができうれしかった。お客さんが温かく最後は手話を一緒にやってくださる方もいた。避難方法、避難場所確認、防災リュック。まだまだ自分のふるさとに帰れない方も多く、自分のふるさとを取り戻せる日が来るといいな。
浜崎海月
OGとしての石巻初めて。被災地を大人の目でみた。小学校の先生のなくなったかた、守れなかったという思い。行ってらっしゃいといって帰ってこないという親の思い。涙がとまらない。自分は悲惨な経験はしていないが伝えなきゃと思ってもなかなか難しい。今日の方は経験しているのに未来の為に伝えていて、自分も少しでも力になりたい。ぱっときて歌える場所のあることありがたい。二日間ありがとう

粕谷直佳
五時半出発の強行スケジュールのなか参加ありがとうございます。先生から相談を受け私は行きたいと思うと伝えた。一回きてボランティアもよいが継続してできることが大事ではないか。コンサートでまた来年来てねと言われもし、もし次があれば参加したい。ステージは強行スケジュールで着いてすぐ大川小、小学生はかなり動揺していた。笑顔がないとしかられたが笑顔で歌っていいのか迷っていたのでは。ほめてあげて

川俣頌子
２回目　学校を残すことが、いいことか悪いことかわからないが、いろいろ考えた二日間。公民館お客様に助けられた。私たちの歌で行ってよかったと思ってもらえたならよかった。歌を歌うのに泣いていたらいけない。人にかかわるので　小学生には大変だろうが中高生や OBOG になったときに考えが変わってくるのではないか参加させてくれてありがとう

安西郁恵
泣いて歌えなくなっただめ OG と力になれなくて申し訳ない。大槌町１８０回以上訪問診療されている話をきいて、見せてもらった津波の映像、茶色い壁。あんなに辛い思いをしている方なのに。頑張ってくださいと言うのはやめようと思ってたのに　こんなに泣いちゃってすいません。いろいろあってね　といわれたとき、頑張ってくださいといってしまった。歌が心を伝えてくれた。

高橋夏海
２回目　貴重なお話をたくさん伺うことができた。自分の目で見て耳で聞いて感じたことは映像などとは違う。前回との違いなど感じた。貴重なお話なのに眠くなっちゃった子残念。ちょっと寂しい。注意できず申し訳なく。コンサートについては、今までこんなに全員に近い方から笑顔で「ありがとう」といわれたことはあっただろうか、こちらが申し訳なくなるほど。笑顔でありがとうと気遣ってくださった。憲悦さんがたくさん集めて３００人近くのお客様

河村優美
今回、自分にこれから何ができるんだろうと探しにきた。ただ歌うこと、東京でテレビをみて、歌うことが何の為になるのか、歌の価値・意味を考えてた。マイクが途中で切れてしまった。思い切ってはずして歌うことが自分らしさを出すことになると思ってはずした。コンサートの後、かけよってきた３０代くらいのかた、震災で二人の子どもをなくした人でしたが逆境でも負けない姿をみて、自分のために歌ってくれたと思ったといってくださった。今後一生忘れないといってくださり、私自身も一生忘れないと伝えた。今回心に残ったこと、憲悦さん、作文の話、女川の高校生の１０００年後の人たちのために、忘れないということ、いろいろ考えさせられた二日間でした。

友部 SA
文集一行でも二行でも金曜日
2016/03/20 16:52 着トイレ休憩後出発
東関道で帰ることに　　６時過ぎ　牛久大仏を眺めつつ
2016/03/20 19:24
１９：３５　市原 SA 出発
１９：４３　羽鳥野バス停で山口姉妹下車
2016/03/20 19:53 君津セブンイレブンで川又さん下車
２０：３５　鴨川市役所着
２０：５０　荷物を下ろし解団の挨拶　帰宅

〔文責　星場麻理〕

石巻市訪問参加者（学年は訪問当時）

小４　吉野　爽　清水　直緒
小５　佐久間大輝　犬石　彩貴　庄司　由季
山口　郁斗　川俣　快斗　中野　翔太
廣田　美月　小原　千奈
小６　星場　未宇　渡辺　杏奈　吉野　快
中１　平野香菜枝　庄司　咲季
中２　若月　琴音　山口　春萌　濱崎　優直
中３　金野　琉聖　川戸　来美　堀江　祐丞
鈴木　麻由　大塚　菜緒　庄司　朱花
佐久間凌香　平野菜々葉
高１　若月　鈴音　浦邉　蕗乃　大溝　有紀
高２　鈴木　柚奈　堀江　南帆　山口　莉奈
高３　浦邉　柚乃　山口　紗奈
指導者　髙橋　史郎　髙橋和貴子
ピアノ　鈴木信太郎
ＯＢ　大島　清史　黒川　浩和
ＯＧ　松本　春菜　濱崎　海月　川又　頌子
河村　優美　粕谷　直佳　髙橋　夏海
安西　郁恵
保護者・後援会
大島　清　堀江　俊臣　堀江　浩美
堀江　勁丞　星場　麻理　庄司由香理
川戸　昌子　若月　祐子　大溝　光代
濱崎　香恵　川俣　方美　清水美也子
吉野　水紀　鈴木　雅子　佐久間佳孝
佐久間明美

感 想 文 集

今回62名で訪問させて頂けたことに深く感謝申し上げます。感想文集も短い期間でとりまとめをいたしましたため、乱丁乱文もあるかと存じますがお許し下さい。又、転勤等の都合で参加者全員の感想文集となっておりませんがご理解下さい。

「3度目の訪問で感じたこと」

保護者　川戸 昌子

3回目の石巻訪問でした。今回は今までとルートが変わり、常磐道を通ったので、福島を通りました。道路マップを見ると、避難困難区域を通るルート。運転手さんに放射能の線量計が
道の端にあると伺っていましたので、地図を見ながら周辺を見回していました。楢葉 PA を過ぎた辺りから線量計が数十メートルおきに設置されており、1マイクロシーベルト以下から始まった
数字が、帰宅困難区域が近づくにつれどんどん上がり、一番高かった所は4マイクロシーベルト以上。心配ない数値ではありますが、無意識に呼吸が浅くなっていました。大きく立派な家々が
建ち並んでいましたが、人の気配、住んでいる様子が全く見られない。そこは、まさにゴーストタウンで、とても不気味でした。人が居ないってこんなにも怖いんだ･･･と感じました。
また、汚染土を包んだ緑や黒のビニールシートがあちこちに見受けられ、原発がうんだ被害の大きさをまざまざと見せつけられました。5年たった今でも｛除染作業中｝という旗をさして
作業が行われている事実に愕然としました。同じ被災地でも、宮城と福島では全く違うことに改めて気づかされました。

大川小学校へは2度目の訪問でした。前回は残っていたがれきや残土、津波が押し寄せた時間で止まっていた時計がなくなり、少しづつ整理されてきている校舎回りに、時間の経過を感じました。

稲井公民館でのコンサートには大勢の方がお見えになって下さり、本当にありがたかったです。お帰りになられる時に、ほとんどのお客様が「来てくれてありがとう」と、子供たちに話しかけて下さい
ました。元気になって頂けたら･･･という思いで伺っていますが、毎回暖かい言葉を下さり、こちらが元気や人と人とのふれあいの大切さを教えて頂いています。

2日目には、被災された方から貴重なお話しを伺うことができました。どのお話も、胸に響くものがたくさんありました。
5年たった今でも、初めて聞くこと、見ること。今だから聞けること、今こそ伝えなければいけないこと･･･。本当に多くの事を今回も感じた訪問でした。
自分ができること･･･、それは見てきたもの、聞いてきたことを帰宅した後、自分の周辺の人に伝えることだと強く感じました。そして決して忘れないこと。そのことを胸に刻み、今後も応援し続けていきたいと思います。

「石巻公演に行って感じたこと」

長狭学園　５年　山口 郁斗

ぼくは、５年前の３月１１日にテレビで見ていた映像から、５年後でもこんなに平たんになっていてびっくりしました。
１日目の夜に歌うコンサートに歩いている時に、どろだらけになったペットボトルが落ちていました。ぼくは、「そういうゴミがあちらこちらに散らばっていたんだろうなー。」と思いました。

大川小学校で歌を歌う前には津波の恐ろしさを感じました。教室が丸見えで２階までも波が届いていたのが恐ろしかったです。また、大川小学校で流されてきせき的に助かった、震災の時ぼくと同じ５年生だった人の話を聞くことが出来ました。ビデオだったけど、クラスメート全員を亡くしてもカメラの前で全然泣かなかったのがすごいと思ったのと、反面なぜか悲しくなりました。本当は悲しいと思っているのに泣かないで話して強いな、と思ったのと、泣いていられないのかと思ったら悲しくなりました。

２日間を通して悲しくなっていたけれど、ぼくは大きな声を出したりして震災にあった方たちの気持ちとちゃんと向き合おうとせず怒られっぱなしでだめでした。もしまた来れる機会があったら、今度はふざけずに真剣に向き合いたいです。

「自分にできること」

館山第三中学校　３年　川戸 来美

私は、今回が三回目の訪問でした。
大川小学校で歌わせてもらったのは２回目だった

けど、周りの景色に衝撃を受けてしまい笑顔で歌えなくて、あそこでもっと笑顔で歌っていればもっと元気になってもらえたかなと思うと悔しかったです。

夜のコンサートでは、そんなことがないように笑顔で全力で歌おうと思い頑張りました。きちんと笑顔で歌えてたか分からないけど、お見送りの時に「ありがとう」と言ってもらえて、少しでも元気になってもらえたかなと思い嬉しかったです。

二日目は、被災された方々のお話を聞くという貴重な体験ができて本当に良かったです。高校生のみなさんは、私と少ししか年が違わないのに、自分の住んでいる町のために何ができるかなどを考えて色々な活動をしていて、凄いなと思いました。

今回聞いた話をしっかりと友達などに伝えることが自分にできる一番のことなのかなと思います。なのでしっかりと津波などの恐怖を伝えて二度とこのような被害を出さないようにしていきたいです。

「震災から５年の今」

鴨川中学校　１年　平野 香菜枝

私が石巻に行ったのは２度目で、一回目に行った時は津波での被害で、建物が壊れていたりと、目で見て感じるものがすごく多かったことを覚えています。

そして、今回行って見えてきたものはすごく復興の工事が進んでいて大震災がおきたとはおもえないくらいで、感じるものは少し違ってはいたけどでもやっぱり、テレビで見るのよりも実際に行ってみたほうが感じるものがおおかったです。

公民館でやったコンサートでは、自分も楽しく歌えて、それにお客さんもなりより楽しんでくれていたのですごく良かったです。

最後のお見送りの時に花を渡した時に「今日はありがとう。また来てね。」って言われたことがすごく心に残っています。

また、被災した方々に元気が与えられたのかなと思いました。

次の日に、被害を受けた人の話を直接聞いて、津波は波じゃなくて壁でおそってきたっていうのがすごく胸に伝わってきました。

今回石巻に行って見てきたこと感じてきたことを、伝えていけたらなと思いました。

「石巻訪問の感想」

安房高等学校　１年　若月 鈴音

私は今回３回目の石巻訪問になりました。１回目と２回目のときは、まだがれきやにおいが町に残っていて、ただただ地震や津波の怖さに圧倒されました。

今回は震災から５年経って、道とかは整備されていたけど、仮設住宅に住んでいる方はまだたくさんいたし、福島県では放射性廃棄物が仮置き場としていたるところにあって、人も少ししか見当たらなくて、ほとんどが更地になっていました。そういうのが全て元通りになるには物凄く時間がかかることなんじゃないかって感じました。

大川小学校は前回来たときとあまり変わっていなくて、そこだけ時間が止まったようでした。それを見て、行く前に心構えをしていたつもりだったけど、やっぱり圧倒されて思い通りに歌えませんでした。それを私はすごく後悔して、夜歌うときは絶対に挽回しなきゃと思いました。

本番前に先生に叱られたこともあって、みんなの気持ちが変わって一生懸命歌えたと思います。私は大川小で歌ったときよりも笑顔で歌えたし、ピアニカも気持ちを込めてできました。石巻の方々は本当に温かくて、一緒に歌ってくださったり、一曲一曲に大きな拍手をしてくださって逆に力をもらいました。帰りにお花を渡したときも「ありがとう」と何回も言われ、来てよかったなと思いました。

２日目はいろんな方からお話を聞き、命の大切さや地震・津波の恐怖について教わりました。自分の家族や友だちが突然いなくなることを想像してみたけど、あまり実感が湧かなくてどんな気持ちになるのかもわかりませんでした。直接会って話を伺うことはできなかったけど、只野くんや女川の高校生は私とほとんど同い年なのに、自分の経験から２度と同じようなことが起きないように世の中の人に伝えたりしていて、すごく大人に感じました。

いろんな方からの話を聞いて、私たちが今普通に生きていることは、当たり前じゃなくてとても幸せなことなんだなと思いました。また、この 2 日間で学んだことを友だちにも知ってもらいたいと思いました。１回目と２回目よりも少し大人になって考え方や感じ方もちょっと変わったからこそ、今回石巻にまた行けて本当によかったです。たくさんの人のお陰で行かせてもらい、歌わせてもらいました。その感謝の気持ちを忘れてはいけないと思います。ありがとうございました！

「石巻を訪問して」

鴨川中学校　２年　　若月 琴音

私は、今回が３回目の石巻訪問でした。１回目は小学４年生のとき、２回目は小学５年生の時、そして今回は中学２年生でした。３回行ってわかったことは「行くごとに感じることが全然違う」ということです。被災地が変わっていたというのもありますが、大きくは自分が変わったのだと思います。

１回目。震災から１年後はまだほとんど当時のままで､止まった信号機､落ちている家具や食器、ヘドロのにおい…。小学生ながら、大きな衝撃と恐怖を感じたのを思い出します。

２回目は、少しきれいになり復興が進んでいることがわかりました。

そして、３回目。実は、私は石巻に行くかどうか悩んでいました。みなさん知っていると思いますが､私は５ヶ月ほど合唱団から離れていました。そして戻ると決めた今、復帰のコンサートが石巻でいいのか｡ちゃんと気持ちを込めて歌えるのか。たくさん悩んで、行くと決めた今回でした。だから、大川小学校で中途半端な歌を歌ってしまったときは、とても悔しかったです。せっかく来たんだから、こんな歌じゃいけない！と思って、夜のコンサートにのぞみました。夜のコンサートは、笑顔で歌うことに努め、全力を出しました。お客さんがみなさん涙を流し、一緒になって歌ってくれた時には、私たちがパワーをもらい、自然に涙がでてきました。結果的にコンサートは大成功？に終わりましたが、私たちの力だけでは成功しなかったと思うし、OB・OG、高橋さんなどたくさんの人のおかげでできたコンサートだということを、強く感じました。

こんなにすばらしい経験は、他ではできないと思うし、温かい石巻の人達に出会えたのは合唱団を続けたからだと思いました。

高校生のみなさんや、只野さんの話を聞き、命の尊さがよくわかったので、自分も身近な人を大切に生きていこうと思いました。

反省点はたくさんあるし、悔しかったこともあるけど石巻に行って､本当によかったと思います。応援してくれたすべての皆さんに感謝します。ありがとうございました。

「石巻を訪問して感じたこと」

東条小学校　４年　清水 直緒

バスの中から見た福島の景色は、背の高い木みたいな草が生えている場所が、たくさんあって、人が住んでいる所と様子がちがって見えました。

石巻は、道路のまわりはきれいになっていて、大きな津波が来た感じがしませんでした。でも、大川小学校は、その時のすがたのままでした。建物がボロボロにこわれていて、ただのじしんではなくて、大変ですごいことが起こったんだと思いました。歌っている時は、いつも歌っている時とは、何かちがう気持ちになったけれど、どんな気持ちだったかは上手く説明出来ない感じです。

コンサートは、お客様がたくさん来てくれていて、びっくりしてすごくきんちょうしました。でも、たくさんの方に聴いてもらえてうれしくて、さくら色や白がまざり合っているような気持ちになりました。お客様の拍手が、大きくてうれしくなるような拍手でした。

サンファン館で話をして下さった方達が、自分のためではなく、色々なみんなのための活動をしている事が分かり、えらいと思いました。「ここはだいじょうぶ。」　ではなく、にげる事が大切だと思いました。

門脇小学校に行く前は、草や木がたくさん生えているイメージがありました。学校の近くは、何もなくてきれいになっていたけれど、写真を見たら、たくさんの家がならんでいて、大変なひがいがあった事がよく分かりました。子ども達を安全にちゃんとひなんさせたり、地域の人を守ってひなんした先生方は、すごくえらいと思いました。

初めて石巻に行ったので、町がきれいになっていて、最初は津波が来たことをあまり感じられませんでした。けれど、大川小学校が残っていて、写真とくらべると想像出来ました。大変な津波が来た事､大きなひがいがあった事が分かりました。

石巻の方に､歌を聴いてもらえて良かったです。

「石巻を訪問して」

保護者　　清水　美也子

初めて石巻に伺いました。写真や映像、そして文章から想像することしか出来なかった場所を訪ねる事は、事実と向き合うという事。当日が近づくにつれ、怖いような気持ちも大きくなっていきました。きちんと向き合えるだろうかと。

大川小学校さんは、想像していたよりもずっとずっと川の傍の山のすぐ傍の、今はまわりには何もなくなってしまった場所にありました。そこに着くまで心の中にあった渦のようなものが、さーっとなくなりました。本当に何もなくなり、手を合わせたら「安らかに、安らかに。」　ぐるぐるとその言葉だけが、胸の中にありました。伺うまでは、特別な場所の様に感じていました。でもそこは、たくさんの子どもたちが、人々がただただ普通に暮らしていた、私たちが暮らす町と同じ。そういう場所でした。

石巻でお会いした方々は、たくさんの痛みを抱えながらも、その痛みと一緒に生きて行こうとされている様に感じました。明るい笑顔の裏に、温かな言葉の中に、受けた傷の事を一生懸命伝えて下さるその想いの中にある気持ちを忘れずにいようと思いました。また、あまりの出来事に立ち止まっている方もいるかもしれません。色々な気持ちがあることを大事にしたいです。また、皆さんが子ども達の気持ちを大切に想っていらっしゃいました。子どもを大切に想う気持ちは、未来を大切に想うことであることを強く感じました。コンサートで感じた温かさも、特別なものであったように思います。あの温かな空気を子どもたちにも、忘れないでいて欲しいな。と、思います。

また、バスの車窓から見た福島には、人の営みの感じられない場所がありました。町があり、家があり、木々には花が咲いているのに・・・。目には見えない物の、あまりにも大きすぎた力。先が見えず、心が重たくなりました。

私は、起こった出来事を、人の気持ちを、子ども達の生きる未来を想像し続けます。そして、自分で考え行動出来る人でいられるよう努力します。子ども達に伝えられるように。

合唱団として訪問させていただけたことで出来た、貴重な経験でした。皆さんに感謝申し上げます。

「石巻で感じたこと」

木更津総合高校　３年　山口 紗奈

私は２０１６年３月１９～２０日に石巻へ訪問した。

石巻へ向かってまず目にするものはバスの中から見える風景だ。３年前は瓦礫がそこらじゅうにあったり生活に必要な服だったり靴だったり学校の教科書、家の柱だったはずの木が落ちていた。あの時は大震災がここでおきたんだと想像しなくても人目で理解できた。だが今は復興が進み家が増えたり土地が整備されていたり公園では子供が遊んでいたりと震災があったと思わせないようだった。少しずつでも前の日常に戻っているのかと少し嬉しくなった。しかし大川小学校に行って、震災はあったんだ。津波は大きかったんだ。こんなにも威力があったんだと圧倒された。やっぱりこのことを忘れちゃいけないし、周りの人にも直接見てもらいたいと思った。

その後、公民館で行ったコンサートでは会場に来て下さった皆さんと一緒に「ふるさと」をうたった。それはとても温かく感動して涙がでるほどだった。会場に来て下さったお客様や今回お話をして下さった方々からは本当に自分の住んでいる街、ふるさとが大好きだという気持ちが伝わってきた。だからこそ復興させたいという強い気持ちがあるんだと感じた。私は転勤族でずっと住んでいる場所がないのでふるさとを愛する気持ちが羨ましいと素直に思ったしそんな場所を自分でも作りたいと思った。

また門脇小学校の校長先生からのお話の時には避難訓練の重要性や必要性を感じさせられた。今まで学校でやっていた避難訓練はただのごっこ遊び程度でもっともっと一人ひとりが重要性に気づき真剣に真面目に取り組まなくては意味がないと思った。また、地震が大きいと放送が使えないという言葉に驚いた。私が今までやった避難訓練では放送が絶対に必要。それが使えなくなるなんて誰も考えていないから本当にそんな場面に遭遇したら助からないだろうと思った。

二日間を通して感じたことはテレビや新聞だけでは伝わっていないことがたくさんあるんだということだ。みんな被災地へ連れて行って自分の目、耳、鼻、肌で感じてほしい。話を聞いてほしいと思った。でもそれは叶わないので自分が目にしてきたものや聞いてきたこと感じてきたことを周りの人に伝えていきたい。二度目の訪問ができて本当に良かったし石巻の方々の笑顔がたくさん見られてよかったと思う。

「第３回石巻訪問に参加して」

保護者　　堀江 俊臣

石巻訪問には，これまでも参加させていただきました。

１回目は，瓦礫の山，崩れた建物など，まだ震災の爪痕が生々しく，言葉が出ませんでした。

２回目には，大川小学校を訪問したときの学校のすぐ近くにある斜面を見て，「なぜ逃げなかったのか？」と率直に思いました。ご遺族の方々の無念さが伝わってくるようでした。

そして今回，整地された被災地も多く，復旧復興が着実に進んでいる様子を見ることができました。

そして，私達が石巻を訪れたことを喜んでくださり，子どもたちの歌に笑顔や涙で応えてくださっている方々。少しでも被災された方々の力になることができたことを，うれしく思いました。

しかしそれは，心のケアや生活面での支援はまだまだ必要とされているということの裏返しであると思います。私達にできる支援のあり方を，今後も考えていく必要を感じました。

また今回，高橋さんはじめ，被災された方々の生の声を聞くことができ，強く思ったことがあります。

それは，「地震の規模はコントロールできないが，震災の規模はコントロールできる」ということです。一人一人が，地震の揺れや津波の襲来に対して正しく理解し，避難行動をとることで，震災の規模は縮小できると思います。

今までの石巻訪問を更に意味あるものにするために，感じたこと学んだことを周囲の人たちにも広め，いつか私達の町にも来る，地震に対する備えを，より実践的なものにしていきたいと思います。

最後になりましたが，石巻訪問を運営してくださった高橋先生ご夫妻，高橋議員さん，メンバーや後援会のみなさん，そして応援してくださったみなさんに心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。

「石巻に行って学んだこと」

木更津総合高校　２年　山口 莉奈

私は今回の訪問で、石巻に行かせていただくのは二回目でした。以前、行かせていただいた時はまだ中学生で、実際に見た景色に驚くことしかできませんでした。でも、今回、高校生という立場になって見る景色は、以前とは違っていました。

石巻に向かう途中で見た、汚染物質。黒いビニールに包まれた塊が、道路の端にいくつも置いてありました。私はこの塊を見て「あぁ、ちゃんと復興に向かっているんだな」と思いました。中学生の頃の私なら「こんなにたくさんの汚染物質、どう処理するんだろう？」なんてことしか思わなかったかもしれません。でも私は、汚染物質を見て、これは復興の証だと思いました。時間が経つほど私たちは震災の恐怖を忘れてしまい、被災地から遠くなるほど私たちは震災の脅威を実感できません。そんな中で汚染物質というものは「町が綺麗になった」という誰が見ても分かる復興の証だと思ったんです。汚染物質を見て、そんなふうに思うのは変だという人がいるかもしれません。でも、震災から五年たった今、テレビや新聞で被災地の状況を知る機会が減っている中で、汚染物質の存在は人々を不安に感じさせるだけではなく、見方を変えれば「復興に向かっている」という希望になると思いました。悲しいことがあったから悲しみが増えていくのではなく、悲しいことがあったけど悲しみだけで終わらせないという気持ちが大事だと思いました。

そして、今回は震災を経験した方からお話を聞くことができました。初めにお話をしてくださったのは、当時大川小学校に通っていた方のお父さんでした。その方は、息子さんと一緒に大川小学校に足を運び、息子さんは色々な人にあの日の出来事をお伝えしているようです。私は、大川小学校に行った時に「前に来た時と、何も変わっていないんだな」と思いました。そこには、私たちの歌を聞きに来てくださった方がたくさんいて、私がもしその方たちと同じ立場だったらどう思うんだろう？とすごく思いました。「自分の家族が亡くなった場所に来れるかな？」「ここで家族が亡くなったという事実に耐えられるかな？」どの考えにも結論なんて出せなかったし、考えるだけで複雑な気持ちになりました。女川町の高校生たちのお話を聞いたときも、門脇小学校の前校長先生からお話を聞いたときも、同じように思い、考えましたが、必ず最後に思うことは同じでした。

震災は、多くの人たちから大切な人を奪い、当たり前だった生活を消し去っていきます。「本当にここに家があったんですか？」この言葉に傷つく人がどれほどいるんだろう？五年前までは、確かにここにあったのに。私たちからしたら小さな疑問でも、被災した方たちには大きな傷になります。

その傷は癒えることはあっても、無くなることはないのかもしれません。でも私は「その傷が少しでも癒えてくれればいいな」「無くすことはできなくても、何かの力になれればいいな」と思って歌を歌いました。私が被災地の方にできることは、歌を歌うことです。言葉では伝えられない思いを、歌で伝えようと思いました。どれだけの人に私の気持ちが伝わったか分からないけれど、あんなにたくさんの方に歌を聞いていただけてすごく嬉しかったです。たくさんの方の協力があったからこそできたコンサートなので、石巻に行かせてくれた両親をはじめ、たくさんの方に感謝しています。そして、私が今回学んだこと、思ったことを決して忘れず、多くの人に伝えていくことが大事だと思いました。

「石巻を訪問して」

鴨川中学校　２年　濱崎 優直

今回２回目の訪問で変わったところもあればあの時のまま変わらないところもあるなと感じました。道とかはきれいに整備されていたし、建物とかも建っていて復興しているんだと思いました。でも、まだ仮設住宅がたくさんあったり、空き地がたくさんあるのを見てまだまだ時間はたくさんかかるなと思いました。大川小学校や門脇小学校を実際に見て、何も言葉が出なくてただ見ていることしか出来ませんでした。テレビなどで見るよりも全然違うし言葉では表すことが出来ないと強く感じました。実際に被災された方の話しを聞いて、津波の恐ろしさを改めて感じることが出来ました。津波は、想像していたのよりもすごく高く波ではなく黒い壁のようにしてくることは知らなかったし、音とか臭いもすごくて怖いと思いました。自分の地域の学校や家や車が波で流されていくのを見た人はどんな気持ちだったんだろうとすごく考えさせられました。私たちが大川小学校で歌った時は気持ちが入ってない歌になってしまったけれど公民館で歌った時は気持ちが入っていたと感じました。公民館では、お客さんがいっぱい来てくれて自分たちも頑張ろうと思えました。1曲１曲が終わると大きな拍手をしてくれたり手拍子をしてくれたり、お客さんからすごい元気をもらえました。「さようなら」や「大川小学校校歌」を歌った時は一緒に歌ってくれたり泣いていた人を見てすごい感動しました。公民館のコンサートでは、お客さんとの一体感を感じることが出来ました。また、「ありがとう」や「また来てね」と言われた時には人の暖かさを感じることも出来ました。もし、私たちの地域にも津波がきて、学校や家など流されてしまった時どうすれば乗り越えられるのかとこの２日間ですごく感じることが出来ました。

鴨川市も海が近くて石巻市も海が近くて、この5 年間の間で堤防がすごく高くなっていたのを見た時、地域の人は今まで見ていた海が見えなくなってどんな気持ちなんだろうとすごい考えてしまいました。自分達の地域の堤防が高くなっていつも見ていた海が見えなくなったら、私は悲しいし、自分の故郷って感じがしないなとも考えてしまいました。

自分がこの２日間石巻市に行って終わりじゃなくて、聞いたことや感じたことを自分のまわりの人たちに伝えて、５年経った今も津波のことを忘れないようにしようと思いました。

「初めての石巻訪問」

田原小学校　5年　　庄司　由季

石巻について先生が、「ここは～だったんだよ。」「ここにはこんなのがあったんだよ。」とたくさん教えてくれましたが、初めて来たのであまりわからないところがありました。でも、高橋さんの説明を聞いて、なんとなくわかるようになりました。

夜の公民館でのコンサートでは、笑顔で歌いました。高橋さんから、「下に降りて歌ってください」と言われ、歌いました。

その時、私の目の前の人と目が合いました。私は、この人を元気にしたいと思い一生けんめい歌いました。

歌い終わった後、その人から「あくしゅしていい？」と言われました。私は「はい」と言ってあくしゅをしました。その人の手はあったかかったです。でもすごくふるえていました。

その人は、私に何度も「がんっばてね。がんばってね。」と言ってくれました。すごくうれしくて、なみだがでてしまいました。

また行ける機会があったら、ぜひ行きたいです。

「二度目の石巻」

鴨川中学校　1年　　庄司　咲季

前回石巻にうかがったときは、ぬいぐるみや家具、靴下や屋根などがたくさん落ちていて、すごく衝撃でした。また、大川小学校や門脇小学校では、周りはなにもなく、すごく静かで、なにもかもうばいさってしまったかんじで、一番印象に残りました。

今回うかがったときは、ぬいぐるみや家具などすべてなくなっていて、きれいになっていました。

大川小学校では、前回と変わらずなにもなく、小学校があるだけでした。

また、高橋さんが、「大川小学校を残すか残さないかを今月までに決めなければいけない。」とおっしゃっていたときはびっくりしました。私は、残してほしいです。なぜなら、これから生まれてくる子や小さい子供などが大きくなって、「3月11日には大震災があったんだよ」と教えても、どんなことがあったのかわからないと思うからです。門脇小学校では、目隠しがしてありどうなっているかは見られませんでしたが、すごく被害が大きかったのだと感じました。

また、震災があった時に校長先生だった鈴木洋子さんの話を聞きました。初めは大きな揺れがあり、津波警報が出てから高台に避難し、海の様子を見ていたら津波が来たそうです。その波はただの波ではなく、大きく広がる黒い壁のようだったそうです。

それを聞いて、どれだけ津波が恐ろしいのかがわかりました。

サンファン館でお話をうかがった時には、一人一人の熱い思いが伝わってきて、こんなにもつらいことがあっても、がんばって毎日を生きている方々はとても強いと思いました。

最後にコンサートでは、拍手や声援で迎えられて、とても明るくて、元気が良くて嬉しかったです。

また、「世界にひとつだけの花」を歌っているとき、一人の女性が一緒になって手話をしてくれて、練習してきてよっかたと思いました。

「ふるさと」では、一緒に歌ってくれる方々がたくさんいて、泣きそうになってしまいました。

最後のお見送りでは、たくさんの人が涙を流して、「ありがとう」「またきてね」「すごくよっかたよ」と言われて、すごく嬉しかったし、石巻に来てよかったと改めて実感しました。

合唱団に入っていてよかったです。

「３回目の石巻」

鴨川中学校　３年　平野 菜々葉

東日本大震災から５年が経った石巻を見て、随分変わったなと感じました。前回や前々回では、がれきや日用品が散らばっていたのに対し、３回目の今回は全て片付けられていて、重機やダンプが動いていました。復興は少しずつ進んでいることがはっきりとわかりました。それでも未だに仮設住宅に住んでいる方も多いので、そこはまだまだなのかなと思いました。

１ 日目、まず最初に大川小学校を訪れました。確かに校歌は、気持ちがこもっていないように少しばかり感じました。その後、稲井公民館でコンサートをしました。和貴子先生に喝を入れられて、私自身も気持ちを入れかえられたし、皆も気持ちを入れかえられたと思います。本番になり、ステージからの景色は凄いもので会場は満員でした。高橋さんに本当に感謝です。順調に曲は進んでいきました。ですが、急遽ステージの下で歌うことになり歌いました。お客様との距離も近くなり違う景色が見られました。アンコール曲も終わり、改めてお客様を見ると、私達の歌で涙を流している方が見られました。石巻の方々は辛い思いをしているのに、こんなにも温かく迎え入れてくれて、逆に涙を流しそうでした。お見送りのとき、私は自分の成長を感じました。いつもなら自分から言葉を発することは少なかったけど、今回は自分から『ありがとうございました』と言えたことがおおかったと思います。刺激もあったし、意味のあった公演でした。収穫はあっても下級生に注意が出来ないことはまだまだだと思いました。

２日目は、高校生や只野さんのお父さんの話を聞きました。高校生達は千年後の命を守る活動をしていて、同じ過ちが起きないようにと対策を次々とたてていて凄いなと思いました。只野さんのお父さんは、今の石巻の現状を教えてくれました。門脇小では、当時校長先生だった方がお話をしてくれました。詳しく状況を知ることができ、貴重な体験でした。あのときの寒さは、想像しやすいようにと天候が仕向けたかのようでした。

素晴らしい公演や貴重なお話を聞けたのも、高橋さんなどのお陰だなと感じました。関わってくれた全ての方々に感謝したいです。

「石巻を訪れて感じた事」

長狭高等学校　３年　　浦邉 柚乃

今回私は、３回目の参加でした。
初めに行った時は、瓦礫がたくさんあったり、壊れた建物があったり という景色を見ましたが､今回は以前と比べ 瓦礫もだいぶ片付いていたり道が整備されていたりと 復興が進んできていると感じました。
一方、沢山の仮設住宅や、黒い袋に入った汚染物質が並べられているのを見て、完全に復興するにはまだまだ時間がかかるというのも実感しました。

１日目は大川小学校、稲井公民館で歌わせていただきました｡大川小学校では最初 気持ちが切り替えられず、どういう気持ちで歌ったらいいか分からない状態でした。歌っている時は精一杯歌っていたつもりでしたが、笑顔も足りなかったし、あまり良いものとは言えなかったと思います。
夜､稲井公民館では 大川小学校での時の反省もありよく歌えたと思います。
その時に聞きに来てくださっていた方々が、大勢の方が一緒に歌ってくださったりお見送りの時に「良かったよ」と声をかけてくださったりして、とても暖かくて、私達はとても恵まれているなと改めて実感しました。

２日目は､色々な話を聞かせていただきました。全ての方の話が記憶に残っていますが、特に印象的だったのは、「女川 1000 年後の命を守る会」の活動についてでした。私と同じくらいの年齢の学生さんが、自分達から発信して石碑を建てたり教科書を作っているという事を聞いて、その意思の強さや行動力に凄く衝撃を受けたし、自分にも何かできる事があるのではと思いました。
今回この２日間で強く感じた事は、直接見たり聞いたりすること、話して伝える事の大切さです。そして、この機会を作ってくださった先生方をはじめとする沢山の方々のおかげでこういう経験ができているんだという事も改めて感じました。

今回、反省点も沢山沢山ありましたが、行く事ができて本当に良かったです。

「石巻で学んだこと」

志学館中等部　　３年　金野 琉聖

自分は、始めての参加でした。
被災地を目で見るのは初めてではありませんでしたが、改めて、震災のすごさを感じました。
まず、稲井公民館のコンサートでは、お客さんがとても暖かく、歌っていて本当に楽しむことが出来ました。被災地に元気を与えたいと意気込んでいたのが、逆にたくさんのエネルギーをもらってしまいました。

大川小学校の校舎はテレビで見るのとは感じることが全然違って、言葉では言い表せないような気持ちになりました｡２日目に伺った只野さんや、女川の高校生の話を聞き、つらい震災にあったにも関わらずその体験を後世に伝えようとしていることに本当に感動させられました。１人１人の命の大切さ、家族、友達の大切さを改めて感じられました。

今回の１泊２日で感じたこと、伺ったことの全てを、被災地の皆さんと一緒になっていると思って、自分も伝えて行きたいと思います。

「石巻に行って学んだこと」

鴨川中学校　３年　鈴木 麻由

私は今回の石巻訪問をさせて頂き学んだことが沢山ありました。歌の力はとても大きいものであること。実際にお話を聞かせていただき地震への対処をどのようにすればいいのか。復興への道のり。そして、石巻の皆さんのあたたかさ。とてもためになりました。
最初、大川小学校では頑張ろうと思っても実際あの場を見ると言葉も出ず、歌う時にはどんな表情で歌えばいいのかわからずあっという間に歌い終わり帰ってきてしまいました。とても後悔がのこりました。先生からもやはり注意を受け、次のコンサートは絶対に成功させると心で思っていても、やはり不安がありました。そんな中本番になり、会場に入った瞬間､暖かい雰囲気に包まれました。緊張もほぐれ､精一杯の力を出す事ができました。私達のとても素晴らしい歌声と言えない歌で何人ものお客様が涙を流してくださっていました。あぁ、私はこの瞬間のためにここに来たんだな。そう本気で思いました。
被災地のためになにかしたくても子供の私では何もすることができません。しかし、こうして歌うことにより、少しでも元気になってもらえた。これが何よりも嬉しいことでした。あのコンサートを私は一生忘れません。
うまくいかないこともたくさんありました。男子への注意不足や、挨拶が小さかったこと。そして

周りへの配慮。来てくださったOG.OBへの感謝の気持ち。これから気をつけていきたいと思います。最後にこんな貴重な体験をさせて頂いた先生方、本当にありがとうございました。
私はこの体験をこれからの未来につなげていきたいと思っています。

「３回目の石巻市訪問」

鴨川中学校　３年　大塚 菜緒

私は今回の石巻の訪問が３回目の訪問はとなりました。初めて訪問させてもらったときは小学５年生でした。
私は東日本大震災が起きた２０１１年３月１１日の日のことをはっきり覚えています。どのテレビ局も津波の様子を放送していました。その様子は現実だとは思えないほど恐いものでした。また地震がくるんじゃないかという不安と、建物も人も全てのものを飲み込んでいく津波の恐ろしさで脚の震えが止まりませんでした。毎日毎日辛いニュースばかりで、すごく嫌でした。
初めての訪問のとき辛い思いを抱えている人たちを前に歌うことは少し怖かったです。被災地は暗くて悲しい気持ちばかりの場所だと思っていました。自分たちが歌を歌うことが被災した方々の力になるか自信がなかったのを覚えています。だけど石巻の人たちは１回目２回目そして今回の訪問、どの訪問でも出会った人たちはみんな温かくて真っ直ぐで本当の意味で「強い人」だと思いました。
２回目の訪問のとき見た街はまだ子供の自転車や靴、棚など生活していく中で使っていたような物たちが形を崩した状態で地面に広がっていました。しかし今回の訪問で見た街は平地で何もありませんでした。道は綺麗に整備され、どんどん新しい街が出来ているようでした。自分はまだ地震の跡が残る被災地を実際に目で見ることが出来たけど今年初めて訪問した人や、特に小学生には「ここに津波が来て、たくさん物や人が流された」と想像するのはやはり難しいように思えました。それが今回の訪問での反省の原因に大きく関わってるのかなとも思います。
大川小学校での献歌は正直どう歌えばいいのか分かりませんでした。たくさんの生徒が亡くなってしまった場所とボロボロの校舎を前にすると本当に言葉が出ませんでした。
公民館でのコンサートは自分的には気持ちをしっかり切り替えて臨むことができたと思います。だけど最後までステージに立てなかったことがもの凄く悔しかったです。１階から聞こえてくる合唱団の歌声を聴けば聴くほど悔しくなりました。とても綺麗な歌声でした。見送りのときお客さんの「来年も絶対きてね」という言葉がはっきり聞こえてきて石巻に来て歌が歌えて良かったって思うと同時に歌っていいなって改めて感じました。
被災された方の話を直接聴くことは普通に生活していたらまず出来ないことだと思います。だからそこ直接聞くことの出来た自分は人にしっかり伝えるべきだと思います。高校生は自分とあまり歳が変わらないのに１０００年後のために自分たちの出来ることを考え、行動に移していてとても大人に見えました。
今回の訪問は小学生のときとは感じるものの違う訪問となりました。今回も石巻の人たちの温かさにパワーをもらいました。訪問する機会を与えて下さった先生方、参加させてくれた親、温かく迎えて下さった石巻の人たち全ての人に感謝です。

「２回目の石巻訪問」

保護者　濱崎 香恵

今回２回目の参加をさせて頂きました。以前行った時もそうでしたが、大川小学校へ下りた途端、何とも言いようもない悲しい気持ち、涙が溢れてきました。まだダンプが行き来してたり、以前と変わらない風景でした。その夜はコンサートで、沢山のお客様が来てくださり、皆さんも！の時は一緒に唄ってくださり本当に感謝の気持ちで一杯でした。石巻の方達は本当にあたたかい人達ばかりで、感謝、感謝でした。次の日は高校生の方達の活動や被災者の人のお話を聞きました。今回は、いろんな方々からお話を聞きましたが、心の復興はまだまだだと思いました。

「３度目の石巻」

OG　濱崎 海月

高校２年、３年、そして今回の社会人１年目と、合計３回伺わせていただきました。伺わせていただく度に、感じることが増え

ていきます。保育士となり一年が過ぎようとしている今、クラスの子どもたちは我が子のようにかわいい存在です。少し大人の目線で見られるようになったのか、大川小学校のあの場に立った時、自分のクラスの子どもたちを重ねてしまって涙が溢れました。もっと生きたかった子どもたちの思い、守りきれなかった先生の思い、いつもと同じように送り出した我が子がもう二度と会えない存在になってしまった親御さんの思い、いろいろな思いを想像して涙が出ました。
また、貴重なお話もたくさん聞かせていただきました。私たちには想像もできないような辛い思いをした方が、未来のためにその記憶や教訓を語り継いでいる姿を目の当たりにして言葉が出ませんでした。あの日のことを絶対に忘れてはいけない、未来を生きる人に伝えていかなければならないと思いました。私に出来ることは小さなことかもしれません。言葉にすることは難しいかもしれません。それでも、今回、自分の目で見たこと・聞いたこと・感じたことを少しでも多くの人に伝えていきたいと、そう強く思います。
そして、毎回感じることがあります。それは、聴いていただくお客様の温かさです。こんな温かいお客様の中で歌えることは、本当に幸せなことだなと思います。
　最後になりましたが高橋さんをはじめとする石巻のみなさん、史郎先生・和貴子先生、保護者のみなさん、団員のみんな、OG・OB、みなさんに感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。次、また伺わせていただける機会があるのなら、私はまたあの場所へあのお客様へ鴨川少年少女合唱団の仲間と共に歌声を届けに行きたいと思います。

「２回目の石巻訪問」

OG　　髙橋 夏海

　私は今回で２回目の参加でした。
　３年前に訪問させていただいた時とどのような変化があるのかをしっかりと見てきたいと思いました。
　今回は震災にあわれた方々のお話をうかがわせていただき、その中で３人の高校生が、もう２度と同じようなことが起きないように「1000 年後の未来を考える」という活動をされているとうかがいました。まだまだ辛く苦しい状況の中で、自分以外の人達のこれからの為に笑顔で明るく一生懸命活動されている姿に胸を打たれました。
稲井公民館でのコンサートでは、泣いておられる方が何人もいらっしゃりその方たちのお気持ちを考えると涙をこらえてなんとか歌いあげることが精一杯でした。
お見送りの際にはお客様全員ではないかと思うくらい大勢の方からありがとうの言葉をいただきました。「ありがとう。また是非来てくださいね」あの時のお客様の温かい笑顔とお言葉はこれからもずっと心の中に残り続けると思います。
　この２日間で本当に沢山のことを学び考えることができました。個人では出来ないであろう経験を沢山させていただきました。
最後になりましたが、石巻公演に関わってくださったすべての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

「東日本大震災を忘れてはいけない」

安房高等学校　２年　鈴木 柚奈

　自分には家族がいて、たくさんの大切な人がいます。周りにはいつも笑顔があって、たまに嫌なことがあります。今回の石巻公演で、私が１番感じたことは、支えてくれる人がいることのありがたさです。当たり前になっていた存在に感謝したい、と改めて思いました。私にとって「人の死」というのは、病気や年齢によって亡くなることでした。しかし、自然災害で亡くなってしまうことが、こんなにも身近にあることを、5 年前のあの日知りました。
　私は実際に被害を受けたわけではありません。テレビで報道される映像や新聞、お話を伺うこと、被災地に行ってその場に立って、現状を目にしたり想像したりすることでしか、地震や津波の恐ろしさを知ることができません。それも全てを知れるわけではありません。ですが、考えることはたくさんありました。絆の大切さを教わりました。日頃から周囲の人と関わりをもつことの必要性を感じました。同じ日本で起きた震災のことを、私たちは絶対に忘れてはいけないと思いました。石巻のお客様は本当に温かく、笑顔と歌を届ける私たちの方が、元気とパワーをもらいました。また来てねって言っていただけたことが、私は歌を通して石巻と鴨川が繋がった気がして、本当に嬉しかったです。
　私が石巻を訪問するのは、2 回目でした。前回と大きく異なった点は、自分の立場と責任感です。準

備は万全なはずでした。でもそれは、はずでしかなく、その中途半端さがみんなをリードできないことにつながってしまいました。これが反省点です。卒団まであと少しです。ここに来て自分ができてないことがたくさん見えてきたけれど、自分に与えられた時間の中で、団にそして団員に、残せることを全うしていきたいです。

最高学年の年に石巻に行けてよかったです。防災訓練はしっかりやろう、と友達にもっと伝えていきます。ありがとうございました。

「石巻公演に参加して」

保護者　　鈴木 雅子

私は、三年前に続き二度目の参加でした。前回の大川小学校での追悼コンサートや、遊学館での心温まるコンサートを振り返りながら石巻を訪問させて頂きました。

朝からの雨も、大川小学校に着く頃には上がり、ご遺族の方々が大切にされている中庭で歌わせて頂く事ができました。五年前には、多くの子供達の笑い声があふれていたであろう校舎前で、大きな声で歌われていただろう「大川小学校校歌」を団員達が歌っているのを聞いているといろいろな思いが胸によぎり、涙があふれてとまりませんでした。そして寒い中、ご遺族の皆様が、足を運んで下さり有り難く思いました。

津波で助かった卒業生が「ここであったことを忘れないで」と旧校舎を残したいと呼びかけていると聞きました。私はその思いをしっかりと受け止め、防災について、大切な方々の命を守るために何が出来るか考えたいと思いました。

稲井公民館でのコンサートでは、多くのお客様に来て頂けました。初めは表情の硬かった子供達も、お客様の温かさにふれ、笑いあり涙ありの素敵なコンサートになりました。会場との一体感、温かい拍手、「ありがとう」のかけ声、子供達の歌声がお客様の心に届いたのを感じました。

「女川いのちの石碑」プロジェクト、千年後の命を守る為に活動している女川町の高校生の皆さんや、大川小学校で津波で助かった只野さんのお父様、元門脇小学校校長の鈴木先生のお話を聞かせて頂き、津波の恐ろしさや、命の大切さなど多くを学ぶ事ができました。

これからを生きて行く子供達にも、かけがえのない貴重な経験になった事と思います。

最後になりますが、高橋様はじめスタッフの皆様、このような機会を与えて下さった先生ご夫妻、OG.OB の皆さん、後援会、保護者の皆様、石巻公演にあたりお世話になりました全ての皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

「スタートライン」

ピアニスト　　鈴木 信太郎

今から約 3 年前、私は鴨川少年少女合唱団とともに石巻へ訪問させていただき、大川小学校で校歌を一緒に演奏させていただいた。それが合唱団と関わらせていただくきっかけとなり、以来今まで、合唱団のピアニストとして活動をともにさせていただいている。

今回の石巻訪問は私にとって２回目であり、言わば合唱団との出会いへの回帰でもあった。

また、それ以上に小学校の教員としての自分は、被災地の今を五感全てをもって感じなければ、と考えていた。この震災から 5 年という節目の年に。というのも、私はこの日本で暮らしている人間として、決して忘れてはいけないという思いが少なからずあったし、周囲の、記憶の風化じみた現象にある種の危機感を覚えていた。

私は２０１１年の東日本大震災を経験していない日本人である。当時、大学卒業を間近に控え、友人たちと卒業旅行に海外へ行っていた。成田を発ったのが３月１０日。翌日、現地での移動中にニュースを受けた。最初は何のことか分からなかったが、夜、ホテルの PC から慣れないイタリア語で日本のことを検索すると、あの仙台空港の映像が画面に映し出され、血の気が引いたのを今でも鮮明に憶えている。それからは旅行どころではなくなり一刻も早く帰国しないと、という思いだったと記憶している。

このような経緯があるからなのか、大震災に対する思いや被災地の方に何かできることはという思いは常にもち続けてきた。

今回は演奏させて頂いただけでなく、お話を伺うことが出来たことにとても感謝している。

まだまだ、命に対する考え方が甘かった。教員として、子どもを守っていく、その考え方が甘かったと自覚している。

得られたことは多い。

印象深かったこと。石巻の人の温かな心。感謝の気持ち。音楽、歌で人と人は繋がっていける。

これから、しっかり伝えていこうと思う。知ることがいかに大切なのか、改めて考えた。
音楽を通して、いや、音楽を介さずともできることはあるはずだ。
　今回の訪問に参加させていただけたことに感謝いたします。

「２回目の石巻訪問で感じたこと」
江見小学校　６年　渡辺 杏奈

　私は石巻市に行くのは２回目でした。初めて行ったときと思ったことが全然違いました。大川小学校に行ったとき、初めてきたときより色々なことを考えてしまい歌に全く集中できませんでした。その日の夜のコンサートでは大川小学校での失敗を取り戻そうと一生懸命歌いました。お見送りでお花を渡すとき、「良かったよ」「来年も来てね」と言ってくれた人がいてすごく嬉しかったです。次の日のお話を聞くときに「津波は大きな壁が押し寄せて来るようなもの」というのを聞いて、自分の住んでいるところに来たらどうなるか考えてとても恐ろしかったです。それが全てを奪っていくんだと思いました。その後聞いた『夢だけは　壊せなかった　大震災』という言葉が強く心に残りました。私の住んでいるところにも、いつ津波が来るかわかりません。でも、とにかく逃げること、『これまで来なかった』は『これからも来ない』とは全く違うということがわかりました。

「三度目の石巻訪問」
保護者　　若月 祐子

　三度目の石巻訪問。今回も、いろいろなことを考えさせられた二日間でした。
　特に、小学校に勤めている自分にとって、７４名の児童と１０名の教員が犠牲となった大川小学校のことは、本当に他人事ではありません。無残な姿になった大川小学校と、自分が当時、勤務していた学校とを重ねて考えてしまいます。２０１１年３月１１日、私自身、窓から海の見える小学校で授業をしていました。もし、今回の地震が千葉県沖で発生していたらと考えると、とても恐ろしいです。改めて、たくさんの子供たちの命を預かっている責任の重さについて考えさせられました。
　今回、お話ししてくださった只野さん、女川の高校生の皆さん、当時の門脇小学校の鈴木校長先生のお話は、とても説得力のあるものでした。鈴木校長先生の、「大地震の時は、校内放送は使えない。」「廊下はいつも静かに歩く。」「みんなが集まったら、静かに話を聞く。」「地震があったら、すぐ高台へ」というお話は、これから、必ず学校で生かしていきたいと思いました。
　稲井公民館でのコンサートでは、たくさんの石巻の方が、温かく迎えていただき、一緒に歌を歌ってくださり、本当に幸せなことでした。高橋憲悦さんをはじめ、たくさんの方のおかげです。
　また、石巻に住む、私の大学時代の先輩は、三回とも、コンサートを聴きに駆けつけてくれました。そして、「今では、普通の生活ができるように戻りつつあるけれど、震災での出来事は、いつまでたっても、心の中で癒えることはありません。被災地に思いを寄せ、素敵な歌声を届けてくれて、嬉しいです。」と話してくれました。
　たくさんの方々のおかげで、今回の訪問が貴重なものとなりました。深く感謝申し上げます。

「石巻で学んだこと」
鴨川中学校　３年　　庄司朱花

　最初に行った大川小学校で歌うとき、笑顔で思ったように歌えなくて今まで苦労してきたたくさんの人に申し訳ないなと思いました。帰ってきてからお母さんから「合唱団が歌っているとき、ずっと鳥が鳴いていた。周りを見ても鳥の姿は見えないのに鳴いていて歌が終わると何も聞こえなくなった。」と聞いて、前回訪問した時にいろんな人が感じた風のこととすごく似ているなと思い、嬉しかったです。
　稲井公民館で歌ったときもたくさんのお客さんが来てくださり、曲が終わるとおこる拍手が本当に気持ちよくて来てよかったと何度も思いました。
　２日目の体験談を聞かせてもらっているときは、自分と変わらない高校生が経験を生かして率先して活動していることを知りました。もし自分がその立場にいたら同じように活動していたのか不思議でした。
また、たくさんの人から歌で元気をもらったと話があって、その話を聞くごとにこれからも音楽を続けていこうと思いました。

私は震災を経験していないから見て聞いて伝えることしかできないけど、いつ自分にも同じようなことが起こるかわからないのでこの２日間と前回までの２回の訪問を生かしてつなげていけたらいいなと思います。

「結　～心が結んでくれたもの～　」

OG　安西 郁恵

今回、初めて宮城県石巻市に、鴨川少年少女合唱団の OG として足を運ばせて頂きました。

まず、高橋市議会議員はじめ石巻の皆様に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

私の知人に、被災地ボランティアに継続していっている方や、無償で訴訟問題のお手伝いをしている方がおり、事前にお話を聞いたり、写真などを見せていただいていたのですが、まさに「百聞は一見にしかず」。現地に着いて言葉を失いました。

そんな環境下の中、明るくユーモアを交えながら、また時には辛かったエピソードをお話くださった高橋市議会議員様には、本当に感謝しております。

大川小学校で歌わせていただいた時、本当につたない歌で申し訳なかったのですが、一曲歌い終える度に、聞きにいらして下さった方が、頭を下げてくださいました。驚きました。私の方が頭が下がる思いでした。これだけお辛いご経験をされていらっしゃるのに…。

また、公民館でのコンサートでは、私達がお客様にたくさんのエネルギーをいただきました。

満員の会場にまず驚きました。多くの方にご来場いただきまして、ありがとうございました。また、つたない演奏でしたが、熱心にご鑑賞いただきまして誠にありがとうございました。

皆さんと一緒に歌った「♪上を向いて歩こう」は、本当に楽しかったですね！

もっと一緒に色々な曲を歌いたかったです。

私は、OG として第3部のみ参加させていただいたのですが、皆様の温かさに感動してしまい、のどが詰まって、思うように歌えなくなってしまいました。そして…。高橋市議会議員様からの「ステージの下で歌っていただきたい」というご提案に、脱帽致しました。私も本当は、会場の皆さまの間に入って歌いたい気持ちでしたので、私の心を読んでいるのでは？！と思うほどでした。ステージの下で一緒に歌わせていただいた「ふるさと」は、一生忘れません。歌いながら、言葉を交わさずとも全員が一つになれた瞬間でした。

閉演後、涙を流されていたお客様の元に、私の足は勝手に向いていました。

「ありがとうございました」とお声をかけると、「たくさん泣いてしまってごめんなさいね、ありがとう！」と力強く握手してくださり、私も涙を流しました。

涙を流すと同時に、私は驚いてもいました。

「どうして、たくさんのお辛い思いをされていらっしゃるのに、他人に”ごめんね”が言えるのだろう、”ありがとう”が言えるのだろう？」

なぜ、震災という想像を絶するようなたくさんの喪失感の中で、あのように他人にやさしくできるのでしょうか。不思議でした。

こんなあたたかい人の心に触れたのは、初めての体験です。

最後に、公民館に大きな和太鼓があるのを拝見しました。聴いてみたい、叩いてみたいと思いました！次回、訪問させていただくことがありましたら、是非、歌い継がれている民謡などをお聞かせください！楽しみにしています♪

只野様、千年後の命を守る会の皆様のお話も忘れません。

悲しい事実や過去、また直面する問題において、今の社会は、フタをする・忘れようとする・忘れさられようとする、風化するの待つ…。または「大変だね」「辛いだろうね」と言って終わり。といったケースが多いと私は感じております。一部メディアもドラマチックに取り上げて終わりです。

しかし、そうではなくて、自ら語り継ぎ、再発を防ぐ活動をしている皆様は本当にすごいです。また「自分たちは、たまたま生き残っただけ」という謙遜のお気持ちも私は感じ、「すごい」という言葉しか頭に出てきませんでした。

震災は起こってしまいました。起こってしまった過去は、今のところ変える手立ては残念ながらありません。

震災で失ったものが何もない私が、こんなことを言うのは大変おこがましいのですが、震災の傷跡が、このような「新しいつながり」をもたらしてくれたこともまた事実です。ですので、私はこの「新しいつながり」に感謝し、また大切にしていきたいと心より思います。

まだまだ、震 災という事実の受容・昇華にはたくさんのお時間がかかると思いますし、様々なお気持ちの方がいらっしゃると思います。私たちは、そういったお気持ちにどうしたら寄り添えるのか、支援できるのかをこれから考えて参ります。

「言葉ですべてを伝えることができれば、音楽は必要なかった」という言葉を、アメリカの音楽療法士、ガストン.E.セイヤは残しています。
私たちは「音楽」というツールを用いて、今後も出来ることをしていきます。
最後に…。
OG として、合唱団員の相応しくない言動において指導しきれなかった部分、至らない点がたくさんあり大変申し訳なく思います。しかしながら、あたたかく迎えくれてくださった皆様に感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。

「石巻へ行ってわかった事」

田原小学校　５年　川俣 快斗

ぼくが、石巻へ行って一番印象に残ったのは、大川小学校です。
一部の壁と屋根だけが残っていて、窓ガラスなどは全部ありませんでした。
校舎へ向かって校歌を歌った時は、あまりの怖さにドキドキして、いつものように歌う事ができませんでした。
バスが通っても、びくともしない橋が壊れるなんて、津波は怖いと思いました。
二日目に、津波にあった方が話してくれたように、震災は忘れちゃいけません。
ぼくは、それを学び、地震がきたら高い所に逃げようと思います。
鴨川に帰ってきて、学校で友達に石巻の話をすると、「うんうん、そうなんだね。」と言って真面目に聞いてくれました。
ぼくが石巻へ行ってわかった事は、津波の怖さ、命をもっと大切にしないといけない事。
ぼくは、石巻へ行って良かったです。

「石巻を訪問して」

田原小学校　５年　犬石 彩貴

私はテレビや本でしか見たことがなかった石巻に今回始めて行きました。実際に行って見た姿はテレビや本とは全然ちがいました。それを見て、それだけ津波、地震はこわいものだと感じました。石巻に着いてからはじめに行ったのは大川小学校でした。そこは大津波と地震でほとんどの場所がこわれていました。　時計も３時３７分で止まったままでした。この校舎を見ながら校歌を歌ったとき、私は地震も津波も来なければ今も生きていてふつうに過ごしていたと思うと悲しくなりました。
次の日に行ったのは門脇小学校でした。旧北上川のそばでほとんどの場所が同じようにこわれていました。
サン・ファン館で只野てつやさんのお父さんが話をしていて、当時の苦しみやつらさがわかりました。
夜のコンサートでは、帰りのバスで団長さんが言っていたように、本当は自分たち合唱団が元気を届けに来たのに、逆に自分たちが元気をもらいました。
歌ったときに宮城の人がとても喜んでくれたので、亡くなった人たちの分も生きて、これからも歌でたくさんの人を元気にしていきたいです。

「石巻へのエールの思い」
（公演に参加させていただいて！）

後援会　　大島　　清

この度、何かお手伝いができればと初めて鴨川少年少女合唱団石巻公演に参加をさせていただきました。とても長く感じた２日間でした。決して疲れたからではありません。
石巻までの途中、車窓から見た人が誰もいない地域の姿、そして石巻市の多くの小さな命が失われた大川小学校に降り立った時の空気の中で言い表しようのない思い、石巻市稲井公民館では、合唱団の公演に来ていただいた多くの方々の心の温かさに触れることができました。そして、私たちを迎えていただいた高橋議員さんをはじめ、震災の記憶を風化させず多くの人たちの命を救うために大川小学校の保存を呼び掛けるなどの活動をしている方、１０００年度の命を守るために日々活動している方や高校生、そして旧石巻市立門脇小学校元校長先生と本当に多くの方々からお話しを伺う機会を得ることができました。
この大震災・大津波による計り知れない心の痛みやりきれない気持ち持ちながら、この現実にしっかりと向き合おうとしている方々からのお話しやメッセージをその場で聞くことができたことは、自分の気持ちが引き締まるとともに命を守ることの意味について考えることにつながりました。こ

の貴重な時間は忘れることができません。
　少年少女合唱団にとって石巻市への訪問は今回で３回目になります。合唱団が来てくれることを待ち望んでいる方がたくさんいることを感じました。歌を通して、被災した方々の気持ちに寄り添い、私たち一人ひとりの思いを伝えていくことができることをこれほどまでに強く感じたことはありません。しかし、心に寄り添い、思いを伝えていくことは、とても難しいことでもあります。歌う団員はもとより、同行した私たちが、どんな思いをもっているのかが問われていることでもあったと思います。涙を流しながら歌を一緒に歌ってくれた多くの方々、「がんばれ」と私たちに声をかけてくれた方、心から感謝の言葉をかけてくれた方々から、逆に勇気をもらったように思います。
　震災から５年に過ぎましたが、本当の復興に近づくことができるために、自分は何ができるのだろうかと考えてしまいました。それを考えさせてくれた２日間でもありました。
　最後に、帰りのバスの中で、合唱団ＯＧの人たちが保護者・後援会の私たちに歌をプレゼントしてくれました。その歌には「感謝」の気持ちが溢れており、元気をもらいました。大切なことはなかなか目に見えませんが、合唱団の中で育てられた大切な歌と心を聞かせていただきました。この公演に同行できたこと、そしてみなさんに感謝をしています。ありがとうございました。

「石巻訪問」

保護者　庄司 由香理

　初めて石巻へうかがわせてもらいました。とても内容の濃い２日間でした。
　石巻へ向かう道のり。山を挟んで情景がちがうことに驚かされました。
人が住んでいるところと、住んでいないところ。人の気配が、生活感がないことがこんなにも恐ろしいものかと感じました。
　大川小学校の建物の他は何も残っていませんでした。ここに家や道路があったとは思えませんでした。団員のみんなが歌っている間、鳥が何羽かずっと鳴いていました。周りを見渡しても鳥の姿はなく、でもすごく近いところで鳴いていました。一緒に歌っているようにも聞こえました。
　高橋さんは、バスの中で震災の話をしてくださいました。只野さんは親子で話をすることをしてくれています。
高校生達の前を向いてる姿。みなさんに、心を打たれました。この先も話をすることを、伝えていくことを続けていってほしいと思いました。
　私にとって、実際に目で見ること、感じとれたこと、あらためてここにきてよかったと思いました。これから家族でいろんなことを話していきたいです。
石巻へ行く機会をつくってくれた高橋先生、ありがとうございます。
受け入れて、いろんな準備や当日の案内などをしてくれました高橋さんや石巻のみなさん、ありがとうございました。
コンサートへ足を運んできてくれたみなさん、ありがとうございました。
先生の後押しをし、いつも合唱団を支えてくれているOG,OBのみなさん、ありがとうございます。
素敵な伴奏、信太郎さんありがとうございました。
団員のみなさん、みんなの歌声素晴らしかったです。もっと自信をもってください。
あなた達の歌声は聴いてくれる人に届いています。
機会があればまた、行きたいです。
二日間、本当にありがとうございました。

「石巻公演に行って」

長狭中学校　２年　山口 春萌

　私は、今回で三回目の訪問でした。今回は、二回目とは全く違ってとっても驚きました。
一日目の行きで私は、「今はどんなふうになっているんだろう。」と、少しドキドキしていました。そして、道路はすごく綺麗になっていたけれど、人や車が少なく、「皆、仮設住宅にいるのかな。」と、思いました。
　最初に大川小学校で歌ったけれど、その時、私は全然笑顔で歌えず、終わってから後悔しました。そのあとに先生に喝をいれてもらって、夜のコンサートは笑顔で歌おうと思いました。そしてその夜のコンサートでは、良い笑顔で歌えて、しかもお客さんが本当に温かく、泣きそうになりました。でも、夜のコンサートがすごく良かったので大川小学校で歌った時のことを思いだして、「寒い中、来て下さったお客さんに失礼なことをしてしまった。」と、ホテルで思いました。
　今回の訪問で、反省する面が沢山あり、日常生活を少しずつ直していこうと思います。

「石巻市を訪問して」

OG　　川又 頌子

今回２回目の参加でした。
実際に自分の耳できき、目でみて、空気を感じることができ本当に貴重な経験をさせていただきました。

3.11 あの日に大切な人、物、場所、時間が一瞬で流され、今まで当たり前だった風景がそこにないこと、、、心の復興とは？町の復興のゴールはなんなのかわからなくなってしまいました。しかし、女川町の高校生が力強く「千年後の命を守る」について講演してくださり、3.11 に向き合う姿勢に、立ち向かい続ける大切さを考えるきっかけになりました。被災地へ行かせてもらい、私には何も出来ないかもしれないけれど、周りの人へ今の被災地や被災された方の気待ちを伝えることを少しずつですがしていきたいと思いました。

公民館では団員と一緒に歌えること、聞きにきてくださる方が来て良かったと思えるように精一杯やろう、という気持ちでした。しかし本番は被災地を回ったあとだったこともあり緊張の面の方が大きくなってしまい「歌なんて聞いたって何も変わらない」と思われる方もいるではないかと思っていました。本番を迎え、たくさんの方々が聞きにきてくださり、声をかけてくださいました。聞きにきてくださる方の温かさに私達が救われていました。手拍子や拍手、一緒に歌い涙を浮かべ笑顔で声をかけてくださる方にどんな言葉をかけていいものなのか、、、私は「ありがとうございました」と伝えることしか出来ませんでした。

今回このような経験をさせていただき、高橋さん、只野さん、女川町の高校生のみなさん、聞きにきてくださった方、石巻のみなさま、本当にありがとうございました。

「改めて感じた自然災害の恐怖と残酷さ」

保護者　　川俣 方美

石巻へは、今回初めて参加させていただきました。

東日本大震災から丸五年、多くのテレビ番組や雑誌などで見てきましたが、実際に行き感じた事は、言葉では表すことの出来ないようなものでした。
行きのバスの中からは、福島に入ると汚染された黒い袋の山積みがあちらこちらにあり、避難指定区域でしょうか、人気のない所もありました。瓦屋根の修理がまだ終わっていないような家も何件もありました。
石巻へ着くと、高橋さんとお会いし、バスに同乗してくださり車中で色々なお話しをしてくださいました。
子供達の着替えのため、立ち寄らせていただいたビッグバンでは、当時のお話しも聞かせてくださいました。ちょうどこの辺りが、大川地区の人達の、一時避難場所であった事。大川小の子供は、名札がついていたので、本人確認が比較的早くできたそうです。子供の名前を呼ばれた親は、すぐに返事をして動く事ができなかったと言います。
現実を受け入れる事ができない…。
信じたくないという思い…。
子供を持つ親ならよくわかります。胸がいっぱいになりました。
大川小学校へ向かうには、北上川沿いの道を通りました。川をしばらく下り大きな橋を渡るとすぐに学校がありました。周りには何もなく、学校だけがぽつんと残っていました。
テレビで見た学校…。
本で見た学校…。
でも、私が実際に目にした学校は、想像以上のものでした。
百聞は一見にしかずとは、まさにこの事だと感じました。
この場所で、我が子と同じくらいの子供達が、何人も津波に連れていかれてしまったのかと思うと…。
津波さえなければ、今もこの学校で、元気な子供達の笑い声が聞こえていたのかと思うと…。
涙が止まりませんでした。
学校のすぐ近くには、山があるのに、どうして山に逃げなかったのかと、とても残念でなりません。
バスに乗り込み窓から外を見ると、数人のおばあちゃん達が、バスに向かい手を振ってくれていました。高橋さんは、「たぶん、遺族の方達でしょう。」とおっしゃっていました。おばあちゃん達は、バスが見えなくなるまで手を振り続けていてくれました。
声は聞こえなくても「ありがとう！来てくれてありがとう！」とそう言っているかのように私は感じました。

その日の夕方の稲井公民館では、会場がいっぱいになるほど大勢の方が、歌を聞きに来てくださいました。
帰りには、涙を流しながら、「ありがとう。」と言

ってくれたおばあちゃんもいました。
　二日目の、女川町の高校生三人のお話しは、これから生まれてくる人達も、1000 年後の命も守りたいというものでした。「私達は、この活動を一生続けていく。」と言い、命を守りたいという強い気持ちが伝わってきました。
また、家族六人のうち三人を亡くされた只野さんは、息子さんに背中をおされながら頑張っている感じでした。大切な家族も、大切な思い出も、すべて一瞬にして津波が連れていってしまうなんて…。
もし、自分がそうだったら…。
深く、悲しく、つらい気持ちと今もまだ戦っているにちがいないはずです。
　最後にうかがった門脇小学校では、当時の校長先生の、体験談を聞かせていただきました。
大川小学校が、北上川沿いにあり海から４㎞という場所に対して、門脇小学校は、旧北上川沿いにあり、海からも数百ﾒｰﾄﾙという位置でした。校舎の裏には高台があり、地震発生後、津波警報が出てすぐに高台へ避難したので、学校での犠牲者はいなかったそうです。高台から見ていた津波は、黒い壁だとおっしゃっていました。恐ろしい光景だったと…。
同じ川沿いにある２つの学校。１つの学校は、すぐに高台へ避難したのに、なぜもう１つの学校は、校庭待機だったのか。とても残念でなりません。
地震が発生したら、川や海から離れ高台へ避難する。
大丈夫だという気持ちは捨て、津波は必ず来るものという事を忘れてはいけないと思いました。
　今回、石巻へ行く事を決断してくださった、史郎先生、和貴子先生。何度も何度も多くの方と連絡をとり悩みながら、多忙な日々だったと思います。
心から感謝いたします。
石巻の高橋さんにも、宿泊先や公民館の準備など色々と手配してくださったと思います。大変お世話になりました。
　帰りのバスでは、OG が私達保護者のために、感謝の気持ちを込めて歌を歌ってくれました。とても温かい気持ちになりました。
　自然災害の恐ろしさ、残酷さとともに、今、みんなで元気で笑いあえる事のありがたみ。当たり前のように生活できる事の幸せをつくづく感じました。
もし、また石巻へ行けるのなら、行きたいと思います。
被災された方の心の傷が、歌によって少しでも癒されるのであれば、私達が行く事で、少しでも前を向いて歩こうと思ってくれるのであれば、私達が行った大きないみがあるように思います。
今回石巻へ行くにあたり、携わっていただいたすべての方に感謝いたします。
　本当にありがとうございました。

「石巻訪問を終えて」
長狭高等学校　１年　大溝 有紀
　私が合唱団に入る前、初めて聞いた合唱団のコンサートはちょうど２度目の石巻訪問の報告をかねた春のコンサートでした。そして入団後の今回の石巻訪問の話が出たとき私はすぐ「行きたい」思いました。
そして、実際に大川小学校などの姿を見てここで自分と同じ年齢の人達が津波によって亡くなってしまったんだと思うと言葉が出ませんでした。夜のコンサートではたくさんの方が私達のコンサートを見に来てくださり会場を見た瞬間とてもうれしかったです。そこでのコンサートは今までで一番楽しいコンサートでした。会場の方と歌ったふるさとはとても心に残りました。
　２日目は、只野さんや高校生の方、門脇小学校の震災当時の校長先生のお話を聞かせてもらいました。とても貴重なお話を聞かせてもらえて今後にいかしたり、人に伝えていけたらいいなと思いました。
　今回の石巻訪問はたくさんの人のおかげで出来ました。そのことを忘れずこれからも頑張りたいと思います。ありがとうございました。

「石巻市を訪問して」
OG　松本 春菜
　今回、OG として石巻訪問に参加させていただきました。
　１日目に前回も伺った大川小学校を訪問しました。５年がたった今でも、時が止まってしまったような感じがしました。世間では、復興という言葉がよくでますが、被災された方々の心の復興は進んでいないと感じました。
夕方に、公民館でコンサートをさせていただきま

したが、着てくださったお客様の多さに驚きました。よそから来た私たちの歌をこれほどの方々が聞いてくださるのかと思うと、うれしさでいっぱいでした。最後のふるさとでは、涙を浮かべ一緒になって歌ってくださり大きな拍手をいただきました。私たちの方が元気をいただいたコンサートでした。

２日目、震災を体験した只野さんと津波を語り継ぐ活動をしている高校生の方の話を聞きました。自分たちの体験した辛い記憶を他人に話すのは、簡単なことではないと思います。だからこそ私たちは、話していただいたことを忘れず、今後身を守るために何ができるのか、考え周りにも伝えていきたいです。

今回、再び石巻訪問をご支援くださった高橋さん、先生、一緒に歌った団員、OBOG、そして石巻の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。
ありがとうございました。

「石巻訪問に参加して」

文理開成高等学校　２年　堀江 南帆

私は，合唱団の団員として，今までに３回，石巻を訪問させていただきました。

１回目と２回目は，瓦礫もたくさんありましたが，今回はそれもほとんど片づけられ，家も新しくなっていて，復興が進んでいるんだと思いました。しかし，大川小学校を見て，本当の復興はこれからだと思いました。

人の痛みや悲しみというものは，他の人にはわかりません。人によって感じ方が違うからです。でも，その痛み，悲しみに思いをはせ，寄り添うことはできると思っています。私は，聴いてもらう人たちが少しでも笑顔になってくれればと思って歌っています。

３月１９日に稲井公民館でコンサートをさせていただきました。想像していた以上にたくさんの人たちに聴きに来ていただけたので，とてもびっくりしました。

私達が歌い終わるたびに，毎回とても大きな拍手をしていただきました。

高橋議員さんの提案でステージから降りて歌ったときには，一緒に手話をしながら聴いてくれる方や涙を流しながら聴いてくれる方がいて，とてもうれしかったです。

最後の３曲になり「『ふるさと』を一緒に歌ってください。」と言うと，会場にいた全員が歌ってくださいました。私が合唱団に入団して１１年経ちますが，そんなことは初めてでした。とても感動して，涙があふれてきました。

その感動の涙が止まらないまま，最後の曲「さようなら」になりました。高２の挨拶が涙でつまってしまったとき，「がんばれ！」という声が聞こえました。とてもうれしかったです。

稲井公民館でのコンサートは，一生忘れない思い出になると思います。

３月２０日，只野さん，女川中学校卒業生の方々，鈴木校長先生から，震災当時の話やこれからの防災で大切なことを伺うことができました。

辛いことを思い出してしまうのに，私達に伝えてくださったということに，とても感謝しています。みなさんは，大川小学校校舎の保全，「１０００年後の命を守る」ための取り組み，高台への町の移転，絆づくりの大切さ，津波の恐ろしさ，地震発生時の広報の困難さなどをたくさんの実体験をふまえて具体的に教えてくださいました。

私は，教科書に載っているような，被害の大きさを示す数字だけを後世に伝えていくのではなく，実際にあった本当に大切なこと，後世で本当に生かせてもらえることを伝えていくことが大切だと思っています。

そして，それらを伝えようとしてくれた人たちに感謝し，しっかりと伝え続けて生きたいと思います。

最後に，今回石巻訪問でお世話になった高橋議員さん，ビッグバンの職員のみなさん，サンファン館のみなさん，震災を伝えてくださった女川中卒業生のみなさん，只野さん，鈴木校長先生，温かいコンサートを作ってくださった石巻の方々へ，心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。

「石巻に行って」

田原小学校　5年　　小原 千奈

私は石巻でバスに乗っている時に見た光景が今も目に焼き付いて忘れられません。
色がないような集落、まだ残っている汚染土砂、もっとびっくりしたのが大川小学校でした。
テレビで見た時より実際に見た方が感じることが違かったからです。

当時、幼稚園を卒園したばかりの私の目にも、テレビに映る津波はとても怖かったのを覚えています。
実際に来てみて、ここはいったいどんな所だったのか、どれだけ大きい津波が襲ったのかとても気になりました。
5 年経った今でも津波が襲ったそのままの姿が残っていました。
その風景に言葉をなくしてしまうほどでした。
　２日目は実際に被災した方の話を聞きました。話は私が思っていた以上でした。
話してくださった方の経験を生かし、もし津波や地震が来たらみんなを誘導できるようにしっかりしたいなと思いました。そして合唱を通じて人の暖かさに触れられてよかったです。
　家族や友達にも今回自分が見た事、聞いた事、感じた事をたくさん伝えたいです。

「３度目の石巻」

OB　大島 清史

　今回石巻の景色を見て感じたことは、以前来た時に比べて目に見える形の復興が少しずつでも進んできたのかなと思いました。目に見える形の復興が進むことはとてもいいことだと思いますが、あの震災の後の景色がなくなってしまっていてなかなか伝わりずらいのかなと感じました。だからこそ多くの人があの日のことを語り継いでいくということがより大切になっていくのだと思います。
私たちは被災地に簡単に行くことはできませんが、その中でこのような機会をいただいて石巻へ行くことができたことはとてもよい体験となりました。写真や映像では伝わることのないその場の空気を感じることができるというのはとても大きいことだと思います。
自分はボランティア等で小学生や中学生の面倒を見たりすることがあります。そのような子どもを自分たちが守らなければいけないと強く思いました。体をはって守ることも必要ですが、起こった出来事をしっかりと語り継ぎ、地震や津波がとても恐ろしいものであるという意識をもってもらうことで守ることができるのだと思います。自分は被災地からは離れたところにいますが、それでも自分にできることを見つけていきたいと思います。

「２回目の訪問で感じたこと」

江見小学校　６年　星場 未宇

前回に行った時はわからないことが多くて、よくわからないまま行ってしまったけど、今回は気持ちを切り替えて行けた。前回より復興していて、前の時よりとっても変わっていてびっくりした。

「ふるさと」

保護者　　星場 麻理

　震災以前には、この歌は懐かしさをこめて歌うという認識だったと思う。
公民館のコンサートで、子ども達がフロアにおりて、お客さんと間近で歌い、満員のお客さんもまた、合唱団員であるごとく、史郎先生の棒に懸命に歌う姿が印象深い。
かつては、年をとっても遠くにいても「ふるさと」はそこにあるものだった。
震災から５年たち、かつてあった「ふるさと」を思うにつけ、この歌はなつかしい故郷の姿を取り戻そうという決意を共有することのできる大切な歌になったと思う。だからこそ満場のお客さんは、合唱団とともに懸命に歌ってくださり、その姿に胸を打たれるのだと思った。
　被災地の様子が、その場に行くとわかることがあるのと同じように、音楽もまた目の前で聴いて歌って場を共有することが心をゆさぶる。
聴いて一緒に歌って下さってありがとうと素直に思えたコンサートの１曲であった。

「人々の強さ」

長狭高等学校　１年　浦邉 蕗乃

　今回初めて大川小学校を見ました。震災・津波の悲惨さを改めて感じました。そして、大川小学校に通っていた子達がら生きていれば自分と同じくらいになっていたのだと思うと余計に悲しくなりました。他にもかつて住宅があった所などを見ましたが、前回来た時より片付いていて、復興に向かっているんだなと思いました。いつかまた、人々の笑顔が溢れる街になってほしいな. . . と思います。言葉に書き表すことができないくらい色々な事を感じました。テレビ越しではなく、自分の目で見れて本当に良かったと思います。

私達の目的は実際にこの目で見る・話を聞くと歌を届ける事だと思いますが、個人的には歌を届ける事に全力を注ぎたいと考えて行きました。
夜のコンサートの前に笑顔で歌ってね！と言ったものの、ずっとニコニコしているのも不謹慎かな...と少し迷いました。けれど実際に見た皆さんはとても強い人たちでした。強がっているのではなく、受け止めた上で前を向いて行こうという風に感じたので、自分の全力で元気を届けるつもりで歌いました。ステージの下に降りて歌った時、目の前にいた方が笑顔で一緒に歌ってくれているのを見て、逆に元気を貰ってしまいました。
　今回行ってみて感じたのは、震災の悲惨さよりも人々の強さでした。実際に自分の目で見るのと、テレビで見るのは全然感じ方が違いました。多くの人に伝えることはできないけれど、友達や家族などの身近な人たちに見たもの、聞いたものを伝えたいと思います。

「被災地訪問を終えて」

後援会会員　堀江 勁丞

　今回鴨川少年少女合唱団の皆様が石巻へ慰問コンサートに行くと聞き、被災地の様子を実際に自分の目で見てみようと思い、同行させていただきました。行ってみて感じたことが、大きく二つあります。
　一つは震災がいかに恐ろしいものであるかということです。「そんなの当たり前のことだ」と思う人も多いかもしれません。私も東日本大震災を経験し、何度もテレビで被災地の様子を目にして、震災について理解しているつもりでした。しかし、幸いなことに館山では大きな被害がなかったため、それがどれだけ怖いものなのかということについて曖昧なイメージしか持っていなかったのです。そのため、実際に被災した現場を見たとき自分が考えていたものとの違いに非常に驚きました。
　特に衝撃を受けたのは、崩壊した大川小学校の校舎を見たときです。海から４㎞も離れた建物が破壊された様子を見て、津波というものがどういうものか初めてわかった気がしました。
　そして、もう一つは音楽の素晴らしさです。土曜日の夜のコンサートの時、私は一番後ろで合唱を聞いていました。そして、そこで涙を流す人たちを見ながら、音楽にはこれ程までに人の心を癒す力があるということについて、改めて気づかされました。
　今回の経験は普段では決して得ることのできない貴重なものでした。
　二日間ありがとうございました。

「石巻公演に参加して 」

保護者　大溝 光代

　大川小学校では、関係者の方以外入れない場所で歌わせていただくことが大変申し訳ないような気持ちでしたが、亡くなられた子どもさんたちも一緒に歌ってくれてるといいなと思いました。
稲井公民館でのコンサートでは、本当にたくさんの方がいらしてくださいました。きっと高橋憲悦さんや、お手伝いいただいた方がお声掛けをしてくださったからだと思い本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
　２日目には震災で被害にあわれた只野さん、女川町の「いのちの石碑プロジェクト」の皆さん、門脇小学校の当時の校長先生だった鈴木先生のお話を伺うことができました。目に見えるところは整地され復興が進んでいるようにも見えましたが、まだまだたくさんの問題があること、そして記録を残そうとする活動をされている方がいらっしゃることを知りました。
　２日間を通して、バスの中でいろいろなお話をしてくださった高橋さん。本当にありがとうございました。みなさんが、つらい体験を話してくださるのは二度と同じような悲しい思いをする人がいなくなるようにとの思いからだと感じました。
　私たちの住む鴨川も海から近いところに学校や家があります。今回の貴重な経験から学んだ「津波はくる」ということを忘れないようにしたいと思います。ありがとうございました。

「ありがとう」という言葉

OG　　河村 優美

　今回、私は２回目の訪問でした。
３年前の訪問では、目の前の現実を受け止めるのに精一杯で、自分にこれから何ができるのかを見つけられないままだったと感じ、その答えを探したくて、今回の参加を決めました。
今回参加してみて、たくさんの答えを見つけるこ

とができました。
被災地に足を運ぶこと、現地の方々の話を聞くこと、一緒に泣くこと、心を込めて歌うこと、見たこと聞いたことを家族や友達に伝えること、震災について知ること、防災について考えること…
行く前は、役に立つもんか！と思っていた些細なことも、ひとつひとつ復興につながっていくのだということ、心の復興は時間やお金ではなく、人の心で進めていくものだということを学びました。
　初日のコンサートの前、高橋憲悦さんがバスの中で、震災で１番つらかった、ということを話してくださいました。
阪神淡路大震災後、「失踪届」という、消息不明者を法律上、死亡したものとみなす届出が可能となりました。届出には、失踪宣言の審判が必要で、その申立書には消息不明者が消息を絶った経緯をご遺族の方々が書くこととなっています。
その申立書をひとつひとつ読むのが高橋さんの担当だったそうです。
「いってらっしゃい」と言われたのに、「いってきます」と返事をしないまま家を出て、二度と奥さんに会えなくなった、と悔やむ方や、消息がわからず、人づてに経緯を聞いていった結果、逃げている途中で飼っている犬のために戻ったと知った方、普段から、感謝を伝えていれば…、あのとき、一緒にいてあげたら…、ご遺族の方々の無念さが苦しいほどに伝わり、そこからというもの、未だに涙腺がゆるいのだ、と。
みなさん、感謝の気持ちや、何気ないあいさつを大切にしてください、と、おっしゃっていました。このお話が、すごく衝撃的でした。自分が思っている以上に、たくさんの人が辛い気持ちを乗り越えて、前を向こうとしているんだと知りました。
　いろんな気持ちを抱えて臨んだコンサート。
今回も先生方のご厚意でソロの機会をいただきました。いろんなトラブルがあって、歌としての出来栄えは散々だったのですが、歌い終わった後、一人のお客様が立ち上がって拍手を送ってくれたのが見え、「ああ、この気持ち、伝わったんだなぁ」と胸がいっぱいになりました。
更に公演後のお見送りの際に泣きながら「震災で子どもを亡くしました、でも、あなたの歌で前を向こうと思えた、ありがとう、今日のことを一生忘れない」と声をかけてくれたお客様の言葉が胸を突き抜け、そこからひとつひとつの「ありがとう」がすごく重たく感じられ、涙が止まりませんでした。
言葉にならない気持ちが歌を通じてお互いに伝わって、なぜか、涙が出て、なぜか、「ありがとう」という言葉が自然と生まれる、そんな不思議で、だけどあたたかいコンサートでした。きっと私も一生忘れません。
　先日、大川小学校が、震災遺構として保存されることが決まった、というニュースがありました。「原爆ドームが平和の象徴なら、大川小は防災・安全の象徴として遺したい」と訴える卒業生のお話を聞いて心を動かされたこともありますが、実際、わたし自身もあの場で校歌を歌わせて頂き、感じたものが大きかったこと、大川小にたくさんの人が足を運んでくれることが、また復興につながるような気がしていたので、よかったなぁと思う反面で、この裏側には、まだご遺体が見つからず、校舎の下に埋もれている可能性を信じて解体を訴えている方々や、思い出すのが辛いからと遺すことに反対している方々も、遺したいと訴える人と同じくらいたくさんいるのだ、ということも私たちは忘れてはいけないし、たくさんの人たちに知っていただきたいと思いました。
　最後になりますが、史郎先生、和貴子先生はじめ、今回の石巻公演に携わったすべての方々にいろんな気づきを与えていただけたこと、心から感謝いたします。
ありがとうございました。

「温かさに触れた石巻訪問」

OG　　粕谷 直佳

　今回、再び石巻を訪問することができ、様々なことを学び、石巻市の皆様の温かさに触れることが出来たことは本当に有意義であったと感じています。でも、今回の訪問で自分自身が感じた細かな記憶は心に閉まっておきたいと思います。ただひとつ、言えることはファインダー越しに見る団員の目に映った東北の現状を受け止め、自分の心にしっかりと刻み、継続的に復興への道のりのお手伝いをしたいと心から思いました。
　私の心の中に一番残っている２日間のことと言えば、石巻の皆様のあたたかい心、そしてそれへの感謝がほとんどを占めていると感じています。
前回も考えましたが、私たちは有名芸能人でもテレビに出る歌手でもありません。見ず知らずの私たちの歌なんかで迷惑にならないだろうか。コンサート直前までずっと頭をよぎっていました。しかし、コンサートを始めた直後からお客様があた

たかな拍手と笑顔、声援をくださり、なんとか演奏を終えることができたと感じています。
前回の公演から3年が経ち、私自身、環境や体調の変化もあり職場を変えました。リハビリの仕事を始めて5年、今やっと、患者さんの命と素直に向き合える職場に出会えたと思っています。2 日目の震災のお話を聞かせていただいた際に、「津波で甚大な被害と犠牲者がと言われますが、被害の大小は関係ない。人の命は一人でも亡くなってはいけないんです。」と聞いたことが私には強く響きました。日々、いのちと向き合う職業に就き、患者さん一人ひとりと向き合う時間を大切にしていこうと改めて思うとともに、自分のいのちも大事に輝かせていけるように努力を重ねていこうと思いました。
　最後になりましたが、コンサートを支えてくださった皆様に本当に感謝しております。ありがとうございました。

「初めてに石巻訪問」
鴨川小学校　４年　吉野　　爽
　私は初めて石巻の訪問に行きました。大川小学校はそのままになっていたけど、道路等は復興が進んでいました。大川小学校の前で歌った時に先生は「笑顔」と言ったけど、本当に笑顔で歌っていいのかわからないまま歌ってしまいました。でも、前にいる石巻の皆さんは少しだけ笑顔になってくれました。
夜に公民館に歌いに行きました。コンサートを聴きにきてくださった方々が大勢いらっしゃいました。合唱団の歌を聴いて泣いている方もいました。私は大川小学校で歌った時より笑顔で歌えたし、皆と声がそろえられて良かったと思いました。
夜、宿泊施設で寝るとき、電気を消した時に、「津波が来たらどうしよう」と思いました。鴨川では思わなかった事が、被災地に直接行って初めて感じました。
　２日目に、只野さんのお話を聞いて、大川小学校はどうして50分もあったのに、高い所がすぐ近くにあったのに逃げなかったのかと思いました。
次に女川の高校生の方々の話を聞きました。千年後の命を守るという話を聞きました。高校生の方々は教科書作りをしたり、石碑をたてたりして、いつ津波が来ても、みんなを安全に避難できるように、石碑を作って津波の恐ろしさを皆に伝えられるように作られていました。高校生の方々は、「私たちは死ぬまでこの活動を続けます」と言った事が、私には津波の被害で亡くなった方がたくさんいるので、また同じ津波が来ても、「自分達と同じ経験を味わう人が少しでも少なくなるように」と思っているんだなと思いました。
　私の小学校で津波の避難訓練で屋上に逃げるけど、すぐ近くに海と川があるので、津波はとても怖いものだときちんと自覚して、ちゃんと訓練を受けたいと思いました。

「石巻を訪問して…」
鴨川小学校　６年　吉野　　快
　僕は石巻を初めて訪問しました。その時に「本当にここで震災があったのか」と自分の目を疑いました。震災が起きたとき僕は小学校１年生で、校舎の前のコンクリートで、あまりの揺れの強さに立てなかった事を覚えています。でもその時は小学校１年生だったので、その後で津波が来た時は、テレビを見て「これは作りものなのか?」と思いました。あれから５年、僕は初めて石巻に行き、たった５年でここまで復興するとは、正直思いませんでした。けれど、大川小学校を見たとき、「震災の時と全く変わっていないんだな」と思いました。今回大川小学校の保存が決まって僕はほっとしました。大川小学校を壊してしまうと、震災の怖さが未来の人達に受け継がれずに忘れられてしまうからです。震災で家族や友達を亡くした方々や、今まで自分達が作ってきたものを無くした方々が、僕達の大川小学校の校歌を聴いてどのような反応をするか最初は少し不安でした。でも石巻の方々の反応は様々でしたが、歌わせていただけた事に感謝したいです。
そして、夜のコンサートでは、涙ぐんでいる方や笑顔で手拍子してくださる方がいたので、とても嬉しかったです。そして、２日目の話では、只野さんのお話や女川の高校生の皆さんを聞いて、津波の被害がよくわかりました。
　この訪問を通して、このような災害が起こった時にどう行動し、どんな風にみんなに呼び掛けていったらいいかを学びました。鴨川もいつ津波が来てもおかしくないので、「とにかく逃げる」を常に頭に入れておきたいと思います。

「石巻を訪問して」

保護者　　吉野 水紀

３月１９日､鴨川を出発して何時間かたった頃、段々と景色が変わってきて、何もないさら地が目立つ地域に入りました｡｢ここにたくさんの家が建っていたのだな｣と思うと、津波の威力がどれ程凄まじいものだったのかを思い知った瞬間でした。大川小学校の敷地内に足を踏み入れた時は、原型がわからない為、だだっ広い場所というイメージがありました。壊れた建物を見ても、津波の威力は感じても、あまりにもそれまで生徒が通っていた教室とは到底思えない建物が目の前にあり、実感が湧いてきませんでした。団員と同じく、ここで、大川小学校の校歌を歌っていいのか、迷いはありました。

私が帰りのバスで大川小学校の元の形を写真で見た時、初めて実感が湧きました。子供達が通ってた姿が想像され、校庭があり、遊んでいる子供達がいて花壇があって…自分の子供達が普段通ってる学校と何ら変わりなく存在していた写真を見ると、やりきれない気持ちになりました。

その日の夜のコンサート、びっくりするほどの数の方が公民館に来てくださり、盛り上げてくださり、一緒に歌ってくださり、涙してくださり、本当に歌の持つ力は、どんな状況の人にもどんな土地の人にも共感しあえるんだなと思いました。アナ雪のファンなのか、優美さんの歌の後に１人立ち上がって拍手を送っていたおば様がいました。信太郎先生のﾄﾞﾅﾙﾄﾞﾀﾞｯｸを思わせるｶｽﾞｰの音に跳び跳ねて喜んでた子供さんがいました。浩和さんの歌とトークは会場の皆さん全員楽しめたと思います。もちろん団員の歌、最高でした❗その後 OG に怒られる事になったのは非常に残念ですが…石巻の方はとても嬉しそうで、ここに参加できて、現地の方の笑顔が見れて本当に良かったと感じました。

２日目、実際に被害に遭われた方のご家族や女川の高校生のお話｡震災から５年たっている事で、私も当時よりも震災の話を耳にする事がほとんどなく、どんな活動が行われているかなんて考えてみた事もありませんでした。震災当時を思い出す事は多々あると思いますが、きちんと前を向いており、今後どうするべきか、自分達と同じ気持ちを味わう人を出したくないという気持ちが伝わってきました。そのような活動が、亡くなった方の命を無駄にしない、教訓として生かしていく方法だと思います。津波を経験をした方達にはその場でしかわからない壮絶な景色があり、様々な思いがあると思います｡辛い事ではあると思いますが、今回震災遺構として保存が決まった大川小学校もそうですが、目に見えるものだけではなく、経験した方が語り伝える事で震災を記憶する事にもなると思います。只野さんや女川の高校生の方々の活動で、今後の被害を最小限にするという考え方を真剣に考え、鴨川にもいつ来てもおかしくない地震や津波が起きたときの行動を回りの人達と話し合っていきたいと思います。

「石巻市を訪問して」

指導者　　髙橋史郎・和貴子

鴨川少年少女合唱団は ２０１６年３月１９日と２０日に 宮城県石巻市を 団員３４名、OBOG９名 保護者１４名 後援会２名、 指導者、ピアニストの６２名で訪問させて頂きました。

２０１１年３月１１日の東日本大震災から丸５年が経過し、合唱団としては２０１２年、２０１３年の３月に次いで３回目の訪問でしたが、改めて現状を見せて頂き、話を伺い、しっかりと考える事の大切さを強く感じ帰ってまいりました。

今回が初めての訪問という小学４、５年生１０名と数名の参加者にとっては、現地を見てもなかなか震災を想像出来なかった事と思います。

街はきれいに整備され、そこに震災前何があったのか想像もつかず、にぎやかな住宅地だったと言われてもそこには整地された広い場所が広がっているだけで､震災の様子を伝えられても 実感が湧かない様子でした。

けれども 大川小学校の場所に立つと 光景は一変、３年前と比べて 建物の色が薄くなって感じられましたが、そこには子ども達が学んでいた学校の姿があり、壊れてしまった校舎の様子に身体を硬くする子どももおりました。

これからを生きるためには、忘れるということの大切さもあると思いますが、やはり忘れないための建物などの保存の重要性も強く感じました。

２回、３回と参加している者にとっては、とても綺麗に片付いている場所を見る事は今まで以上に複雑な想いになったり 、様々な事を考えるきっかけになったと思います。

参加者の想いも訪問の回数を重ね、また年齢を重ねて深くなり、被災されたかたへの深い想いに変化する事を感じています。

１９日の夜は、高橋憲悦様はじめ多くの方が準

備してくださった稲井公民館という所でコンサートをさせて頂き、３００名もの方に足を運んで頂きました。ずっと仮設住宅にお住まいという方も多いと伺いましたが、皆様本当に明るく子ども達と一緒に歌ってくださり、コンサートを盛り上げてくださいました。「ふるさと」では、会場全体が一つになり感動で涙を流す団員も何人もおりました。震災によって多くの辛さ苦しさを経験されても尚、強く明るく温かい石巻の皆様を心から尊敬申し上げます。

翌２０日は 被災された方からお話を伺いました。お一人は大川小学校で津波にのまれながら助かった４人の児童の中の一人、只野哲也君のお父さん英昭さんです。

哲也君は、妹さんとお母さん、おじいさんの３人を失いながらも震災後すぐからずっとマスコミに出、話をし続けています。

命の大切さを誰よりも知っている哲也君だからこそ、辛くても逃げず話をしてきたこと、それを支え続けているお父さんの想いを話してくださいました。

震災と関係なく「子どもを信じ話を聴き支えるのは親の役目、親が自分を信じて応援してくれると思えれば 子どもは頑張れる！」と話してくださいました。

只野さんのお話の後は、女川町の高校生３人から千年後の命を守るために今出来る事をするという前向きで強いメッセージを聴かせて頂きました。千年後の人にも 津波が来たら逃げるという事を伝えるために石碑を建てるという活動をしている素晴らしい姿、考え方に感動しました。

このあと、門脇小学校の当時の校長先生から門脇小学校の近くでお話を聴かせて頂きました。

日頃から人の話は静かに聴き また指示を聞き漏らさないようにすることの大切さなど普段の学校生活で気をつける事が、震災があったり 非常事態に遭遇した時に役に立つ事など教えて頂きました。防災は訓練も大切であるが、日頃の行動が大切という事がよくわかりました。

２日間で学んだ事や話して頂いた事を忘れず家族や友達など周りの人にも伝え続けて行く事が何より大事だと思います。

この訪問にあたり、多くの方にご尽力頂きまたご支援を賜りましたこと大変ありがたく感謝申し上げます。

石巻の復興と石巻市民の皆様がどうかお心安らかにお過ごしくださいますようお祈り申し上げます。

「ありがとう」

髙橋としみ

娘は幼いころ　よくありがとうと言った
箸を置くと　ありがとう　と
ごはんをよそうと　ありがとう　と
何かするたびに　ありがとう　と言った
母であるわたしが
そのことばを教えたわけではないけれど
ありがとう　といった
娘に教えられた
ありがとう　という言葉は　いい言葉だね

あなたがたは　わたしたちに
感動をおみやげにくださいました
泣けてしまうほどに
こころを揺り動かしました
はじめての出会いなのに
歌ってすばらしい
はじめての人と人なのに
こころとこころを通わすことのできる
歌ってすばらしい
こころが通い合うには
まごころがなければ　つたわらないね

まだ、若いあなたたちが
こんなにもおおぜいの人に
感動をあたえるすばらしさ
ずっと歌ってください
小さな縁でも
その縁と縁がつながり人を結びます
ずっと歌ってください
そして　娘が幼い時よく言っていた言葉を
あなたがたに　「ありがとう」　と
言わせてください

〔石巻市在住の髙橋様のお手紙より〕